

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 2025 年度定例総会

開催日時：2025 年 5 月 12 日(月)14:00～16:00（予定）

開催方法：オンライン開催（Zoom）

接 続 先：<https://zoom.us/j/92766184417?pwd=w4rbLdeUv6SIew9aHdbjJCKJQpg7WJ.1>

### 議事次第（案）

1. 会議成立の確認
2. ウェブ会議の進め方説明
3. 議長選任
4. 議事次第（案）確認・承認
5. 2024 年度活動報告
  - (1) 国際枠組みの変更に関する補足説明（事務局長）
  - (2) 理事会活動報告（会長）資料 1
  - (3) IODP 部会活動報告（IODP 部会長）資料 2
  - (4) ICDP 部会活動報告（ICDP 部会長）資料 3
6. 2024 年度決算報告・監査報告（財務担当理事・監事）資料 4
7. 2025 年度執行体制報告資料 5
8. 部会名の変更及びそれに伴う規約等の変更に係る審議資料 6
9. 2025 年度活動方針案審議
  - (1) J-DESC 活動方針案（会長）資料 7
  - (2) IODP 部会活動方針案（IODP 部会長）資料 8
  - (3) ICDP 部会活動方針案（ICDP 部会長）資料 9
10. 2025 年度予算案審議（財務担当理事）資料 10
11. その他
  - (1) J-DESC 会員機関現状報告資料 11
  - (2) その他
12. 議長解任
13. 会長挨拶

### 配付資料

- |        |                     |        |                            |
|--------|---------------------|--------|----------------------------|
| 資料 1   | 理事会 2024 年度活動報告     | 資料 6-3 | J-DESC 規約（変更案）             |
| 資料 2   | IODP 部会 2024 年度活動報告 | 資料 7   | J-DESC 2025 年度活動方針案        |
| 資料 3   | ICDP 部会 2024 年度活動報告 | 資料 8   | IODP 部会 2025 年度活動方針案       |
| 資料 4   | 2024 年度収支決算書・監査報告   | 資料 9   | ICDP 部会 2025 年度活動方針案       |
| 資料 5   | 2025 年度執行体制         | 資料 10  | 2025 年度予算案                 |
| 資料 6-1 | 部会名の変更について（案）       | 資料 11  | J-DESC 会員リスト（2025 年 5 月時点） |
| 資料 6-2 | IODP 部会規則（変更案）      |        |                            |

2025 年 5 月 12 日

日本地球掘削科学コンソーシアム  
理事会 2024 年度活動報告（案）

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

2024 年度の理事会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

| 理事会の活動の推進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| （活動概要）J-DESC 規約に従い、ウェブ審議等を併用しつつ必要に応じ理事会を開催し、IODP <sup>3</sup> の開始に向けた重要事項を中心に審議・決定を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 理事会の開催状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 第 1 回：2024 年 7 月 4 日 15:00-17:00（オンライン会議）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 第 2 回：2024 年 11 月 1 日 14:00-17:00（ハイブリッド会議）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 第 3 回：2025 年 3 月 4 日 9:30-12:00（オンライン会議）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 第 4 回：2025 年 5 月 7 日 15:00-16:30（オンライン会議）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 総務                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・理事会と両部会執行委員会の所掌会務を適切に配分し、安定的な組織運営を行った。</li><li>・新ホームページ、メールニュース、SNS 等を通じたわかりやすい情報発信を適宜行った。</li><li>・「国連海洋科学の 10 年 (UN Ocean Decade)」への貢献活動 (Contribution) として登録している「科学海洋掘削を通じた地球・海のダイナミクスへのリテラシー向上 (J-DESC-IODP Initiative)」について、IODP 終了後も継続することを決定し、UN Ocean Decade 事務局より受理された。</li><li>・リポジトリコア再解析プログラム (Repository Core Re-Discovery Program: ReCoRD) では、理事会と IODP 部会執行委員会の混成メンバーからなるレガシーコア・データ活用方針検討タスクチームにおいて、2 件のプロポーザルの審査を行い、いずれも採択した。また、前年度に採択済みの 1 件を実施した。</li></ul> |

- ・ IODP<sup>3</sup> でアーカイブ活用プログラムとして SPARCs (Scientific Projects using Ocean Drilling ARChives) が始まることを踏まえ ReCoRD の今後の運用方針や評価方法などを継続して検討した。
- ・ 名古屋大学大学院環境学研究科が主催するハードロック掘削科学ワークショップ Summer2024 を共催し、周知などに協力した。
- ・ 将来の掘削科学を担う人材の育成及び掘削科学に対する一般国民の認知度拡大を目的として、IODP 最後の航海である第 405 次研究航海 (JTRACK) において、船上中継を実施する企画を J-DESC ホームページ上で募集した。応募があった企画に対して共催・協力を行い、計 19 件のイベントや授業を実施した。(イベント詳細は IODP 部会活動報告別表 3 を参照)

#### <今後の課題>

- ・ 国内外での地球掘削科学の認知拡大・プレゼンス向上へ向けた方策の検討を継続し、J-DESC としての持続可能なあり方、制度設計に向けた取組。
- ・ 将来の掘削科学を担う人材育成及び掘削科学の一般国民への認知度拡大を目指した組織活性化。

#### 科学戦略

- ・ IODP<sup>3</sup> をはじめとする国内外の掘削研究に関する動向を把握し、国内コミュニティへの適切な情報発信及び掘削科学研究への参画の促進を行った。
- ・ 国内外の掘削研究に関する情勢を踏まえ、JAMSTEC 地球掘削科学推進委員会からのヒアリングに対応し、掘削科学の社会的意義・科学的意義を伝える資料作成に協力した。
- ・ 日本地球惑星科学連合 2024 年大会 (JpGU2024) において「地球掘削科学」セッションを実施し、IODP・ICDP 等の掘削科学に関するプロジェクト概要報告や研究成果報告の場を提供した。また、JpGU2025 にも同様のセッションを提案し、開催に向け準備を行った。
- ・ 両部会と協力し、J-DESC タウンホールミーティングを開催し、国内外コミュニティの交流及び連携促進を図った。

#### <今後の課題>

- ・ 国内外の掘削研究に関する情勢を分析し、積極的に国内コミュニティへ情

報発信する。

- ・IODP<sup>3</sup>・ICDP をはじめとする掘削科学研究に関連する国内コミュニティの活性化、研究活動への参画を促進する。
- ・「海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワーク」の実現に向けて、IODP<sup>3</sup>・ICDP の連携を進め、新規の掘削提案や科学テーマを育成する。

## 財務

- ・2024 年度予算を執行し、決算報告を行った。J-DESC の財政状況及び活動方針を踏まえ、適切な予算案の策定を行った。
- ・コアスクール開催費については、本年度実施された 4 件のコアスクール（微化石コース、Deep Life コース、コア解析基礎コース、同位体分析コース）に対し、必要な経費を適切に執行した。
- ・広報活動費については、学会出展等のイベント活動や、5 年ぶりの開催となったタウンホールミーティングにおいて、国内コミュニティの対面での交流活性化を目的に、必要な予算を適切に執行した。また、“学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2024” 出展など新規に提案されたイベントについては、年度当初予算の範囲内で費用の工面・調整を行った。
- ・会員提案型活動経費については、1 件の申請を受け、財務担当理事を委員長とする審査委員会にて審査・採択し、当該予算からの支援を行った。また、旅費支出制限についての見直しを行い、制限を一部緩和した。
- ・学生・若手参加奨励費については、地球掘削科学に関するスクール等参加支援制度への 1 件の申請を受け、理事会で審査・採択し、当該予算から支援を行った。
- ・会議開催費、調査費、謝金、掘削提案・成果促進支援費については、今年度の支出はなかった。
- ・理事会活動経費については、Web 会議を基本として経費節減を図りつつ、第 2 回のハイブリッド会議では対面参加役員の旅費として適切に執行した。

## <今後の課題>

特になし（2025 年度活動方針に基づき活動を行う）

## 外務

- ・2025 年に発足予定の国際海洋科学掘削計画 IODP<sup>3</sup> における日本のプレゼ

ンス発揮と実施基盤の確立に向け、IODP 部会及び JAMSTEC 等と連携しつつ、欧州海洋研究掘削コンソーシアム（ECORD）との継続的な協議を行った。

- ・ IODP<sup>3</sup> のコアメンバーとして、国際委員会等で求められる日本の役割拡大を踏まえ、効率的な人材活用方法の検討、ならびに国内研究者に対して積極的な参画の呼びかけを行った。
- ・ IODP<sup>3</sup> の国際委員公募に際し、国内での応募者評価・推薦プロセスを新たに構築し、それに基づき、MSP-Facility Board、Magellan<sup>3</sup> Science Steering Committee への推薦候補者の選任作業を理事会で実施した。

#### <今後の課題>

特になし（2025 年度活動方針に基づき活動を行う）

#### 広報・教育

- ・ 高知大学が主導する「JSPS 研究拠点形成事業」の申請・採択に向けて協力した。
- ・ 笹川平和財団海洋政策研究所の発行する Ocean Newsletter 第 575 号に、「国連海洋科学の 10 年」への J-DESC の貢献活動（J-DESC-IODP Initiative）の取組を紹介する記事を寄稿した。
- ・ IODP<sup>3</sup> 紹介パンフレットの新規作成に向けて、審議を開始した。
- ・ JpGU のスポンサープログラムにゴールドスポンサーとして加入し出展料相当の年会費を支出することで、出展に加え各種特典を得た。2025 年度も継続することを決定した。
- ・ JpGU2024 において、IODP 部会及び ICDP 部会と協力し、JAMSTEC 及び高知大学との合同で現地及びオンラインブース出展を行った。また、JpGU2025 の展示に向けた準備を行った。
- ・ 日本地質学会第 131 年学術大会において、IODP 部会及び ICDP 部会と協力し、JAMSTEC との合同で現地ブース出展ならびに夜間小集会の開催を行った。夜間小集会では 61 名の参加者があり、IODP 第 405 次研究航海（JTRACK）中の「ちきゅう」との中継、IODP<sup>3</sup> 準備状況報告、ICDP へ提案検討中の科学掘削アイデアの紹介、Greg Moore 名誉教授（2024 年度地質学会都城賞受賞者）の講演、若手研究者による掘削科学の未来に関する議論等を行った。

- ・毎年発行している J-DESC ニュースレターについて、幅広い年代の読者獲得を念頭に制作した。
- ・掘削科学の魅力や J-DESC の活動内容、及び掘削科学に係る各種情報について、メールニュース「J-DESC Update」を通じて各種最新情報を提供したほか、J-DESC ホームページ及び Facebook ページを効果的に活用して情報発信を行った。

<今後の課題>

特になし（2025 年度活動方針に基づき活動を行う）

2025 年 5 月 12 日

日本地球掘削科学コンソーシアム  
IODP 部会 2024 年度活動報告（案）

IODP 部会執行委員会

2024 年度の IODP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 部会活動の推進・総務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| IODP 部会執行委員会の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| （活動概要）IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 執行委員会の開催状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 第 1 回：2024 年 6 月 14 日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 第 2 回：2024 年 11 月 22 日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 第 3 回：2025 年 3 月 31 日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 専門部会等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 掘削航海専門部会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ・ 2025 年 2 月 12 日にオンライン会合を開催し、専門部会の役割やタスクなどを確認した。また、国際海洋科学掘削計画（IODP <sup>3</sup> ）の立ち上げに伴い、Scientific Projects using Ocean Drilling Archives（SPARCs）への参加応募者の評価が新たにタスクに加わることを了承した。<br>・ IODP <sup>3</sup> に対応し、掘削航海専門部会における評価マニュアルを更新した。<br>・ IODP <sup>3</sup> 第 502 次及び第 503 次研究航海の J-DESC 乗船応募者の評価をメールベースで行った。また、応募者のうち修士課程の学生に対してオンライン面談を実施し、評価の参考とした。2024 年度の航海及び応募者・乗船者一覧は別表 1 参照。<br>・ IODP 第 405 次研究航海（JTRACK）アフタークルーズワークの申請を受け、審査を実施し、採択した。 |
| 科学推進専門部会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ・ 2024 年 12 月 26 日にオンライン会合を開催し、専門部会の役割やタスクなどを確認した。また、IODP <sup>3</sup> の立ち上げや J-DESC 内の体制変更に伴い、                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>SPARCs 提案促進・サポート、Magellan<sup>3</sup> Science Steering Committee 委員候補者リストの更新（Science Evaluation Panel（SEP）委員と共通）、リポジトリコア再解析プログラム（ReCoRD）提案書評価が新たにタスクに加わることを了承した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IODP から IODP<sup>3</sup>への移行期であり、SEP 委員の新規公募の方法や時期が変則的であったため、2024 年度は候補者リストの更新は実施しなかった。</li> <li>・「ちきゅう」を用いた表層科学掘削プログラム（SCORE）への掘削提案 1 件（Revise）を審査した。</li> </ul>                                                                                                                          |
| マントル掘削ワーキンググループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>ワーキンググループメンバーの人事異動及びマントル掘削をめぐる国内外の状況変化を踏まえ、ワーキンググループの体制見直しに向けた議論・準備を開始した。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 科学戦略関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 科学コミュニティの活性化及び新規掘削提案の発掘・作成支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本地球惑星科学連合 2024 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催した。</li> <li>・日本地球惑星科学連合 2025 年大会へのセッション提案を行った。</li> <li>・理事会及び ICDP 部会と協力し、J-DESC タウンホールミーティングを開催するとともに、IODP 第 405 次研究航海（JTRACK）に関する話題提供を行った。</li> <li>・IODP 部会から選出した審査委員を通じて、会員提案型活動経費への提案 1 件の審査・採択を行い、ボトムアップの会員提案型活動を推進した。</li> <li>・理事会と当執行委員会の混成メンバーからなるレガシーコア・データ活用方針検討タスクチームにおいては、KCC との連携のもとでリポジトリコア再解析プログラム（ReCoRD）の運用を行うとともに、2025 年度以降の制度改変について検討を進めた。2024 年度は、前年度に採択された 1 件が実施され、新たに 2 件のプロポーザルの審査を行った。</li> </ul> |
| 外務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| IODP/IODP <sup>3</sup> に関わる対外的な活動及び支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・IODP<sup>3</sup>の発足に向け、理事会及び JAMSTEC と連携しつつ、欧州海洋研究掘削コンソーシアム（ECORD）との継続的な協議を行った。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IODP の国際会議（JOIDES Resolution Facility Board、ECORD Facility Board、IODP Forum、SEP）及び IODP<sup>3</sup> の発足に向けた準備・調整等を行うための国際会議（interim-MSP Facility Board、interim-SEP）に、委員・オブザーバーとして出席し、海洋科学掘削の国際協力推進に貢献するとともに、国際動向の把握と国内への情報展開を行った。IODP/IODP<sup>3</sup> に関する会議開催実績は別表 2 を参照。</li> <li>・ 理事会において決定された IODP<sup>3</sup> の国際委員の選任に関するタスクの整理に従い、Science Evaluation Panel（SEP）応募者の評価を行った。</li> </ul>                                              |
| 広報・教育関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 新規活動の創出・企画の検討                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IODP 最後の <i>JOIDES Resolution</i> 航海である第 403 次研究航海において、日本から参加した乗船研究者により、ガイドラインに基づく船上からのオンライン中継イベントが航海中に 2 回実施された。</li> <li>・ IODP 最後の航海である第 405 次研究航海（JTRACK）において、J-DESC ホームページ上で企画を募集し、理事会が共催・協力を決定した船上からの中継イベント企画 19 件について、JAMSTEC 及び乗船研究者の協力のもと実施した。イベント参加者は合計でおよそ 1,300 人にのぼった。各イベントの詳細は別表 3 を参照。</li> <li>・ JTRACK 開始前のアウトリーチの一環として、「学都『仙台・宮城』サイエンス・デイ 2024」において、JAMSTEC と合同で体験型ブースを出展した。家族連れを中心に、1 日でおおよそ 500 人のブース訪問があった。</li> </ul> |
| 学会等における広報活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会及び ICDP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2024 年大会（JpGU2024）にてブース出展（JAMSTEC、高知大学との合同）を行った。また、JpGU2025 の展示に向けた準備を行った。</li> <li>・ 理事会及び ICDP 部会と協力し、日本地質学会第 131 年学術大会にてブース出展（JAMSTEC との合同）ならびに夜間小集会の開催を行った。夜間小集会では 61 名の参加者があり、海洋掘削関連トピックとして、第 405 次研究航海（JTRACK）中の「ちきゅう」との中継や IODP<sup>3</sup> 準備状況の報告等を行った。</li> </ul>                                                                                                                                    |
| 若手育成・研究コミュニティの底辺拡大                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IODP 第 403 次研究航海の乗船研究者に選ばれた大学院生に対し、適切なフ</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>フォローアップを行うため、メンターを指名し、プレクルーズトレーニング等の支援を行った。</p> <p>・J-DESC コアスクールのコア解析基礎コース、コア同位体分析コース、微化石コースに加え、新設の Deep Life コースの企画を承認した。全てのコースを対面で実施し、合計参加者数はのべ 31 人であった。</p> <p>・J-DESC 会員を対象に、日本国内の大学・研究機関において、掘削航海または ICDP プロジェクトに関連した研究を行うことで提出された学位論文等（博士・修士・学士課程の論文及び卒業研究を含む）に関するアンケート調査を実施した。前年度に行った調査と合わせて、2024 年 8 月末時点で、IODP など海洋科学掘削に関連するものが 177 件、ICDP に関連するものが 49 件、両方に関連するものが 1 件、計 227 件の学位論文等のデータが集まった。【ICDP 部会と共通】</p> |  |
| 出版物等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| J-DESC Newsletter vol. 17（日本語）電子版を発行した。また、vol. 18（日本語）電子版の発行に向けて、目次の作成や寄稿依頼などの準備を進めた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| その他普及活動・アウトリーチ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
| メールニュース「J-DESC Update」を通じて各種最新情報を提供したほか、J-DESC ホームページ及び Facebook ページを効果的に活用した情報発信も行った。また、関係機関による IODP 航海やその研究成果に関するプレスリリースにも協力した。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |

## 2024 年度以降の航海および応募者・乗船者一覧

| # | 航海名 | プロポーザル | 実施期間<br>(予定) | 出港/入港 | 乗船者/<br>応募者 | 乗船決定者 | 備考 |
|---|-----|--------|--------------|-------|-------------|-------|----|
|---|-----|--------|--------------|-------|-------------|-------|----|

## JOIDES Resolution (JRSO)

|     |                                            |                         |                           |                                                           |         |                                                      |      |
|-----|--------------------------------------------|-------------------------|---------------------------|-----------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------|------|
| 401 | Mediterranean-Atlantic<br>Gateway Exchange | 895-Full3 &<br>895-Add2 | 2023/12/10-<br>2024/02/09 | Amsterdam,<br>Netherlands<br>to Napoli, Italy             | 3 名/4 名 | ・江川 浩輔 (九州大学)<br>・田中 えりか (高知大学)<br>・Xunhui Xu (京都大学) | 航海終了 |
| 402 | Tyrrhenian<br>Continent-Ocean Transition   | 927-Full2 &<br>927-Add3 | 2024/02/09-<br>04/08      | Napoli to Napoli, Italy                                   | 3 名/4 名 | ・秋澤 紀克 (東京大学)<br>・安邊 啓明 (京都大学)<br>・森下 知晃 (金沢大学)      | 航海終了 |
| 403 | Eastern Fram Strait Paleo-Archive          | 985-Full2 &<br>985-Add  | 2024/06/04-<br>08/02      | Amsterdam,<br>Netherlands<br>To Amsterdam,<br>Netherlands | 3 名/7 名 | ・飯塚 睦 (北海道大学)<br>・菅沼 悠介 (極地研究所)<br>・酒井 雄飛 (京都大学)     | 航海終了 |

## Mission Specific Platform (ESO)

|     |                                                                |           |                                                                       |                                  |                               |                                                                                                                 |      |
|-----|----------------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 501 | New England Shelf Hydrogeology<br>(Joint IODP3/NSF Expedition) | 637-Full2 | <b>研究航海</b><br>2025/5/1-<br>8/14<br><b>陸上分析</b><br>2026/1/14-<br>2/11 | Providence, Rhode<br>Island, USA | 第 1 回<br>・ 4 名<br>追加<br>・ 1 名 | <b>乗船研究者</b><br>・林 武司 (秋田大学)<br>・Shuai Feng (京都大学)<br><br><b>陸上分析研究者</b><br>・新谷 毅 (北海道立総合研究機構)<br>・桑野 太輔 (京都大学) | 航海予定 |
|-----|----------------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|

Chikyu

|     |                                                                                               |           |                                                                                         |                              |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |        |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 405 | Japan Trench<br>Tsunamigenesis (JTRACK)                                                       | 835-Full2 | 2024/09/6-<br>12/20                                                                     | Shimizu to Shimizu,<br>Japan | 19 名/25 名 | <div>共同首席研究者</div> <div>小平 秀一（JAMSTEC）<br/>氏家 恒太郎（筑波大学）</div> <div>乗船研究者</div> <div>石川 剛志（JAMSTEC）<br/>井尻 暁（神戸大学）<br/>岩井 雅夫（高知大学）<br/>内田 泰蔵（高知大学）<br/>奥田 花也（JAMSTEC）<br/>金松 敏也（JAMSTEC）<br/>神谷 奈々（京都大学）<br/>張瑜 峻（JAMSTEC）<br/>中村 恭之（JAMSTEC）<br/>萩野 穰（山形大学）<br/>濱田 洋平（JAMSTEC）<br/>福地 里菜（鳴門教育大学）<br/>細野 日向子（産総研）<br/>宮川 歩夢（産総研）<br/>諸野 祐樹（JAMSTEC）<br/>山口 飛鳥（東京大学）<br/>山本 由弦（神戸大学）<br/>吉本 剛瑠（神戸大学）</div> | 航海終了   |
| 502 | Impact of Petit-Spot Magmatism<br>on Subduction Zone Seismicity<br>and the Global Geochemical | 939-APL3  | <div>研究航海</div> <div>2025/10/31-<br/>11/24<br/>（予定）</div> <div>陸上分析</div> <div>未定</div> | Shiogama, Japan              | 応募者 29 名  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 乗船者選考中 |

別表 1

|     |                                        |           |                          |                                  |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |        |
|-----|----------------------------------------|-----------|--------------------------|----------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 503 | Hadal Trench Tsunamigenic Slip History | 1010-APL2 | 2025/11/24-12/12<br>(予定) | Shiogama, Japan / Shimizu, Japan | 13 名 | <b>Co-Chief Scientists</b><br>Ken Ikehara<br>Michael Strasser<br><br><b>Participants</b><br>Yu-Chun Chang<br>Seiya Fujishima<br>Rina Fukuchi<br>Yoshitaka Hashimoto<br>Tatsuhiko Hoshino<br>Mutsumi IIZUKA<br>Takashi Ishizawa<br>Hiroshi Kitazato<br>Yasufumi Satoguchi<br>Yuhji Yamamoto<br>Yuka Yokoyama<br>Yang ZHAO | 乗船者選考中 |
|-----|----------------------------------------|-----------|--------------------------|----------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|

2024年度に開催されたIODP関連国際会議とJ-DESCが派遣した出席者

| 会議名称                                    | 開催日            | 会場（ハイブリッド開催）                                | 出席者                               |
|-----------------------------------------|----------------|---------------------------------------------|-----------------------------------|
| JOIDES Resolution Facility Board (JRFB) | 2024/5/8-5/9   | Hilton Waikiki Beach<br>（アメリカ・ハワイ州）         | 島 伸和（CIB委員長・神戸大学）                 |
|                                         |                |                                             | 益田 晴恵（J-DESC IODP部会長、次期会長・大阪公立大学） |
|                                         |                |                                             | 石橋 純一郎（J-DESC理事、次期IODP部会長・神戸大学）   |
| Science Evaluation Panel (SEP)          | 2024/6/18-6/19 | University of Helsinki<br>（フィンランド・ヘルシンキ）    | 木下 正高（次期SEP共同議長候補・東京大学地震研究所）      |
|                                         |                |                                             | 白石 和也（SEP委員・JAMSTEC）              |
|                                         |                |                                             | 仲田 理映（SEP委員・東京大学）                 |
|                                         |                |                                             | 浜橋 真理（SEP委員・山口大学）                 |
|                                         |                |                                             | 針金 由美子（SEP委員・産業技術総合研究所）           |
|                                         |                |                                             | 松崎 賢史（SEP委員・東京大学大気海洋研究所）          |
|                                         |                |                                             | 山口 耕生（SEP委員・東邦大学）                 |
|                                         |                |                                             | 山本 由弦（SEP委員・神戸大学）                 |
| IODP Forum & PMO Meeting                | 2024/9/3-9/5   | 静岡市民文化会館<br>（静岡県静岡市）                        | 島 伸和（CIB委員長・神戸大学）                 |
|                                         |                |                                             | 益田 晴恵（J-DESC会長・大阪公立大学）            |
|                                         |                |                                             | 石橋 純一郎（IODP部会長・神戸大学）              |
|                                         |                |                                             | 諸野 祐樹（EFB委員・JAMSTEC）              |
| EFB – Joint with CIB Meeting            | 2024/9/25-9/26 | Wyng Gardens Conference Centre（イギリス・ケンブリッジ） | 島 伸和（CIB委員長・神戸大学）                 |
|                                         |                |                                             | 木下 正高（CIB委員・東京大学地震研究所）            |
|                                         |                |                                             | 諸野 祐樹（EFB委員・JAMSTEC）              |

# JTRACK中継イベント一覧

## 別表3

| No. | 団体名                         | イベント名                                           | 対象者                        | 配信会場                              | 実施日時                    | 対応者（会場）                | 対応者（船上）                                    | 参加者<br>online | 参加者<br>in person | 展示内容（あれば）                                                                                |
|-----|-----------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|-------------------------|------------------------|--------------------------------------------|---------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 山形大学小白川キャンパス<br>（地質学会夜間小集会） | 日本地質学会 J-DESC夜間小集会<br>：JTRACKからIODP3へ           | 研究者、大学院生                   | 山形大学<br>小白川キャンパス                  | 9/9（月）<br>18:00-19:30   | 山口飛鳥、J-DESC事務局         | 氏家恒太郎、ほか<br>Window1乗船研究者                   | 0             | 61               | 展示品（地球掘削科学ブースとして出展、Chikyu1/700模型、JTRACKポスター＆チラシ、出港映像等）<br>配布物（ちきゅうパンフ、クリアファイル、JTRACKチラシ） |
| 2   | 高知県立室戸高等学校                  | 室戸高校 授業                                         | 高校2年生                      | 高知県立室戸高等学校                        | 9/24（火）<br>10:50-11:40  | 室戸ジオパーク                | 岩井雅夫                                       | 0             | －                | なし                                                                                       |
| 3   | 高知県南国市立十市小学校                | 総合的な学習の時間 地球深部<br>探査船「ちきゅう」で<br>プレート境界巨大地震を探る   | 小学生（50名）                   | 高知県南国市立十市<br>小学校<br>※7月に一度授業をしている | 10/8（火）<br>11:25-12:25  | 廣瀬丈洋、濱田洋平              | 諸野祐樹、ほかWindow1<br>乗船研究者                    | 5             | 50               | ドリルビットの一部、蛍光顕微鏡を用いたの海底下微生物観察、蛍光で光るDNAデモンストレーション、堆積物中の微生物発見を模擬するBB弾バック、ブラックライトで蛍光体験       |
| 4   | 東京大学大気海洋研究所講堂・ハイブリッド        | 第12回海中海底工学フォーラム・ZERO                            | 理学系・工学系の<br>研究者・学生、企業、役人   | 東京大学大気海洋<br>研究所講堂・ハイブリッド          | 10/11（金）<br>13:00-14:00 | 山口飛鳥                   | 氏家恒太郎、ほか<br>Window1乗船研究者                   | －             | 50               | なし                                                                                       |
| 5   | 土佐塾中学校                      | 総合学習 地球深部探査船「ちきゅう」で<br>プレート境界巨大地震を探る            | 中学1年生                      | 土佐塾中学校<br>（中高一貫校、授業経験あるが前振り授業はなし） | 10/15（火）<br>15:30-16:30 | 廣瀬丈洋、濱田洋平              | 諸野祐樹、ほかWindow1<br>乗船研究者                    | 0             | 160              | ドリルビット                                                                                   |
| 6   | 手作り科学館 Exedra               | 地球深部探査船「ちきゅう」ライブ<br>接続講演会<br>地下を掘って探る地震発生のメカニズム | 小学3年生から中学生<br>及びその保護者（25名） | 手作り科学館 Exedra<br>（千葉県柏市）          | 10/19（土）<br>10:30-11:30 | 山口飛鳥、J-DESC<br>事務局（高橋） | 諸野祐樹、ほか<br>Window1乗船研究者                    | 0             | 24               | JFASTコアレプリカ、コアライナー、コーンビットの一部など                                                           |
| 7   | 高知コアセンター                    | 高知コアセンター1日公開での<br>JTRACK中継                      | 一般市民                       | 高知コアセンター                          | 11/2（土）<br>10:30-13:30  | 諸野祐樹、岩井雅夫              | 濱田洋平、奥田花也、神谷<br>奈々、石川剛志、ほか<br>Window2乗船研究者 | 0             | 100              | ドリルビット                                                                                   |



| No. | 団体名                          | イベント名                                                                                                                                                      | 対象者                            | 配信会場                      | 実施日時                             | 対応者（会場）                         | 対応者（船上）                                                      | 参加者<br>online                       | 参加者<br>in person | 展示内容（あれば）                                                                                                  |
|-----|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|---------------------------|----------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8   | 横浜市立桜丘高等学校                   | ちきゅう「地球」と繋がろう                                                                                                                                              | 高校生（40名、部<br>活生および授業の生<br>徒数名） | 横浜市立桜丘高等学<br>校<br>（理科実験室） | 11/6（水）<br>16:00-17:30           | J-DESC事務局（高<br>橋、佐藤）            | 諸野祐樹、ほかWindow2<br>乗船研究者                                      | 0                                   | 30               | 展示品（コアレプリカ、ミニビ<br>ット、解説パネル、Chikyu模<br>型）、配布物（Chikyuパン<br>フ、クリアファイル、JTRACKチ<br>ラシ）                          |
| 9   | つくばエキスポセンター<br>（茨城県つくば市）     | 『「ちきゅう」を探検しよう！ ～掘削<br>作業中の地球深部探査船「ちき<br>ゅう」と生中継～』8月に諸野が講演<br>会で訪れるのでその際に前振り説<br>明を実施予定。それを聞いた人だけ<br>が来場するわけではないので、当日<br>も30分程度で事前の解説を行い<br>30分～1時間程度の接続を希望 | 一般市民                           | つくばエキスポセンター<br>（茨城県つくば市）  | 11/10（日） イ<br>ベント13:00-<br>14:30 | 諸野祐樹                            | 宮川歩夢、細野日向子、萩<br>野穰、ほかWindow2乗船<br>研究者                        | 0                                   | 55               | ドリルビットの一部、深海圧力<br>で縮んだ発泡カップ、JTRACK<br>コア試料の一部など                                                            |
| 10  | 新潟大学理学部<br>科学人材育成事業実<br>施委員会 | 新潟の理数好き中高生と繋ぐ地球<br>深部探査船「ちきゅう」乗船研究者<br>とのふれあいトーク                                                                                                           | 中学生（35名）                       | 新潟大学理学部                   | 11/10（日）<br>15:00-16:00          | 高澤栄一                            | EPM、JAMSTEC広報課、<br>ほかWindow2乗船研究者                            | 35                                  | 0                | 配付物：ちきゅうパンフ、クリア<br>ファイル、JTRACKチラシ                                                                          |
| 11  | 金沢大学自然科学大<br>講義棟             | 地震発生域の海洋掘削で何がわ<br>かるのか？                                                                                                                                    | 学部生～博士前期<br>課程                 | 金沢大学自然科学大<br>講義棟          | 11/11（月）<br>16:45-17:45          |                                 | EPM、JAMSTEC広報課、<br>山口飛鳥、濱田洋平、内田<br>泰蔵、ほかWindow2乗船<br>研究者     | 0                                   | 50               | 配布物（ちきゅうパンフ、クリア<br>ファイル、JTRACKチラシ）                                                                         |
| 12  | 岐阜県サイエンスワールド                 | 掘削作業中の地球深部探査船<br>「ちきゅう」と生中継<br>～宮城県沖約200kmの沖合で東<br>北地方太平洋沖地震後の時空間<br>変化を調査！<br>「海の底を掘ってわかること～生物が<br>すむ果てを探る」                                               | 一般市民                           | 岐阜県サイエンスワール<br>ド          | 11/17（日）<br>13:30-15:00          | 諸野祐樹                            | EPM、JAMSTEC広報課、<br>濱田洋平、内田泰蔵、萩野<br>穰、山口飛鳥、ほか<br>Window2乗船研究者 | 97                                  | 91               | ドリルビットの一部、蛍光顕微<br>鏡を用いての海底下微生物<br>観察、蛍光で光るDNAデモン<br>ストレーション、堆積物中の微<br>生物発見を模擬するBB弾<br>バック、ブラックライトで蛍光体<br>験 |
| 13  | 産総研地質標本館                     | 地質標本館<br>「日本海溝掘削現場との通信イベ<br>ント」                                                                                                                            | 一般の方、学生                        | 産総研地質標本館                  | 11/23（土）<br>14:00-15:00          | 森田澄人、草野有紀、<br>J-DESC事務局（高<br>橋） | 宮川歩夢、細野日向子、ほ<br>かWindow2乗船研究者                                | 十数名<br>（会場前<br>廊下のモニ<br>ターで立ち<br>見） | 40               | 展示品：JFASTコアレプリカ、<br>コアライナー、コアビットの一<br>部、「ちきゅう」プラモデル（産<br>総研所有）、配布物：クリア<br>ファイル、JTRACKチラシ                   |

| No. | 団体名                                                           | イベント名                                    | 対象者                                     | 配信会場                                                          | 実施日時                         | 対応者（会場）                               | 対応者（船上）                                            | 参加者<br>online | 参加者<br>in person    | 展示内容（あれば）                                                                          |
|-----|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 14  | 旭川市科学館                                                        | サイエンスセミナー、プラネタリウムでの講演+「ちきゅう」と接続するライブイベント | 一般市民                                    | 旭川市科学館プラネタリウム                                                 | 11/23(土)<br>14:30-16:15      | 諸野祐樹                                  | EPM、JAMSTEC広報課、濱田洋平、石川剛志、ほかWindow2乗船研究者            | －             | 61                  | ドリルビットの一部、蛍光顕微鏡を用いたの海底下微生物観察、蛍光で光るDNAデモンストレーション、堆積物中の微生物発見を模擬するBB弾バック、ブラックライトで蛍光体験 |
| 15  | 静岡市東部生涯学習センター 3階ホール（このほか、山形大学等、アースサイエンスウィークジャパンでの連携団体と同時接続予定） | 【J-DESC共催】第2回 秘密の研究所！？ちきゅう号へ大潜入！         | 親子・シニア世代を中心とした30名～50名程度 ※小学校高学年以上におすすすめ | 静岡市東部生涯学習センター 3階ホール（このほか、山形大学等、アースサイエンスウィークジャパンでの連携団体と同時接続予定） | 2024/11/24<br>（日）14:00-15:30 | 静岡会場：五十嵐智秋、J-DESC事務局（高橋）<br>山形会場：竹林知大 | EPM、奥田花也、萩野穂、山口飛鳥、細野日向子、濱田洋平、ほかWindow2乗船研究者        | －             | 静岡：約60<br>山形：約200   | コアビット、コーンビットの一部、ちきゅうプラモデル、配布物（ちきゅうパンフ、クリアファイル、JTRACKチラシ）                           |
| 16  | 北海道教育大学札幌校<br>理数教育専攻地学領域                                      | 授業（中等理科教育法Ⅱ）                             | 大学学部2年次（20-30名）                         | 北海道教育大学札幌校                                                    | 2024/11/27<br>13:30-14:30    | 相澤正隆                                  | EPM、JAMSTEC広報課、奥田花也、内田泰蔵、神谷奈々、細野日向子、ほかWindow2乗船研究者 | -             | 30名<br>（学部2年生）      | 配布物（ちきゅうパンフ、クリアファイル）                                                               |
| 17  | 八王子市こども科学館                                                    | 「地球深部探査船「ちきゅう」と生中継！：海の底を掘ってわかることって何だ？」   | 小学生、中学生                                 | 八王子市こども科学館                                                    | 12/1（日）<br>13:00-14:30       | 諸野祐樹、J-DESC事務局（高橋）                    | EPM、奥田花也、山口飛鳥、ほかWindow2乗船研究者                       | -             | 44<br>（大人26名、子供18名） | ドリルビットの一部、深海圧力で縮んだ発泡カップ、J-TRACKコア試料の一部など                                           |
| 18  | 高知市立みらい科学館                                                    | 「地球深部探査船「ちきゅう」と生中継」                      | 一般市民                                    | 高知市立みらい科学館                                                    | 12/15（日）<br>13:30-15:00      | 諸野祐樹                                  | EPM、濱田洋平、石川剛志、内田泰蔵、ほかWindow2乗船研究者                  | -             | 15                  | ドリルビットの一部、深海圧力で縮んだ発泡カップ、J-TRACKコア試料の一部など                                           |
| 19  | 早稲田大学                                                         | 早稲田大学講義「海洋底ダイナミクス」                       | 早稲田大学学生（学部3年・4年）                        | 早稲田大学                                                         | 12/19（木）<br>9:00-10:00       | 不明                                    | 山口飛鳥、ほかWindow2乗船研究者                                | －             | 不明                  | －                                                                                  |

| No. | 団体名 | イベント名 | 対象者 | 配信会場 | 実施日時 | 対応者（会場） | 対応者（船上） | 参加者<br>online | 参加者<br>in person | 展示内容（あれば） |
|-----|-----|-------|-----|------|------|---------|---------|---------------|------------------|-----------|
|-----|-----|-------|-----|------|------|---------|---------|---------------|------------------|-----------|

その他研究航海前後のイベントなど

| No. | 団体名                          | イベント名                                                                     | 対象者      | 会場               | 実施日時      | 出展体制                                                                       | 対応者（会場）                                                                                                   | 参加者<br>in person                        | 展示内容                                                                                                                                                                     |
|-----|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------|------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 特定非営利活動法人<br>natural science | 学都「仙台・宮城」サイエ<br>ンス・デイ2024 出展<br>「海に浮かぶ巨大な研究所<br>『ちきゅう』へようこそ<br>あなたも乗船研究者！ | 未就学児～社会人 | 東北大学川内北キャン<br>パス | 2024/7/14 | J-DESC（主担当：<br>IODP部会執行委員<br>会）とJAMSTEC（主<br>担当：MarE3、協<br>力：IMG）の共同出<br>展 | J-DESC: 鈴木紀毅＋学<br>生3名、萩野穰<br>IMG: 中村恭之<br>MarE3: 江口暢久、前<br>田玲奈<br>J-DESC事務局: 斎藤実<br>篤、モーキョー、高橋可<br>江、江橋由美 | サイエンス・デイ全体来場<br>者：10,708<br>当ブース来場者：471 | ちきゅう模型、航海映像、<br>JFASTコアレプリカ、コアピッ<br>ト、コアライナー、東北海底地<br>形図3D、東北沖海底岩石、<br>掘削孔リエントリーゲーム、顕<br>微鏡（放散虫・岩石薄片）<br>等<br>配布物：缶バッジ、ペーパーク<br>ラフト、IODP航海への学生参<br>加実績大学一覧、JTRACK<br>チラシ |

2025 年 5 月 12 日

日本地球掘削科学コンソーシアム  
ICDP 部会 2024 年度活動報告（案）

ICDP 部会執行委員会

2024 年度の ICDP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

| 執行委員会の開催 ・ 総務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告した。</li><li>・ ICDP 部会執行委員会を以下の通り開催した。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 執行委員会の開催状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 第 1 回：2024 年 7 月 30 日 Web 開催                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 第 2 回：2024 年 12 月 25 日 Web 開催                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 第 3 回：2025 年 4 月 2 日 Web 開催                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 科学戦略関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 理事会及び IODP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2024 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、地球掘削科学の裾野拡大に努めた。</li><li>・ 理事会及び IODP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2025 年大会へのセッション提案を行った。</li><li>・ 「ICDP 掘削提案サポート制度」及び「ICDP 掘削提案なんでも相談窓口」を通年運営した。本年度は新規の相談はなかったが、前年度から相談を受けている 1 件の掘削提案について、引き続き助言や資料の提供等を行った。</li><li>・ 日本が関与する掘削提案について進捗のフォローアップを行い、2025 年 1 月に 4 件（Workshop Proposal 2 件、Full Proposal 1 件、Land-to-Sea Preliminary Proposal 1 件）の ICDP 掘削提案書が提出された。</li><li>・ 日本の研究者の ICDP 関連成果の取りまとめを継続した。</li><li>・ J-DESC 会員を対象に、日本国内の大学・研究機関において、掘削航海または ICDP プロジェクトに関連した研究を行うことで提出された学位論文等（博士・修士・学士課程の論文及び卒業研究を含む）に関するアンケート調査を実施した（ICDP の調査は本年度初めて実施）。前年度に行った調査と合わせ</li></ul> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>て、2024 年 8 月末時点で、IODP など海洋科学掘削に関連するものが 177 件、ICDP に関連するものが 49 件、両方に関連するものが 1 件、計 227 件の学位論文等のデータが集まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICDP 部会から選出した審査委員を通じて、会員提案型活動経費への提案 1 件の審査・採択を行い、ボトムアップの会員提案型活動を推進した。</li> </ul>                                                                                                                                              |
| 財務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>年度予算の策定・運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICDP 部会の活動予定を踏まえ、年度予算の運用を適切に行った。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 外務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ICDP に関わる対外的な活動及び支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICDP の Assembly of Governors (AOG)、Executive Committee (EC)、Science Advisory Group (SAG) の日本選出委員を通じて、ICDP の国際情勢について情報収集を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映した。</li> <li>・ 本年度は SAG の新規募集はなかった。</li> <li>・ 現行の MoU が 2026 年 3 月に期限を迎えることを踏まえ、関連機関の動向や日本のアクティビティに関する情報収集、国内コミュニティの意思のとりまとめに向けた検討を開始した。</li> </ul>                                    |
| 国内外コミュニティの交流・連携促進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会及び IODP 部会と協力し、J-DESC タウンホールミーティングを開催するとともに、日本が主導した ICDP プロジェクト「DSeis」及びその後継プロジェクトとして ICDP に提案中の「PROTEA」に関する話題提供を行った。</li> <li>・ 若手研究者の ICDP プロジェクトへの関与の深化と将来の PI への成長などを狙いとして 2025 年 4 月 25 日～27 日に開催予定の ICDP Early Career Researcher Workshop “The Next Generation” について、国内への参加促進活動を行い、日本から 4 名の若手研究者（うち 3 名は大学院生）の参加が決まった。</li> </ul> |
| 広報・教育関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 過去の成果の幅広い広報、新規活動の創出・企画の検討                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会及び IODP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2024 年大会（JpGU2024）にてブース出展（JAMSTEC、高知大学との合同）を行った。ブースでは ICDP プロジェクト「DSeis」と ICDP 提案「PROTEA」に関するポスターを展示した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                             |

- ・理事会及び IODP 部会と協力し、日本地質学会第 131 年学術大会にてブース出展（JAMSTEC との合同）ならびに夜間小集会の開催を行った。夜間小集会では 61 名の参加者があり、ICDP 関連トピックとして、ICDP 部会の活動報告や、ICDP への提案に向けて検討中の陸上科学掘削のアイデア（能登半島での科学掘削）の紹介・議論等を行った。
- ・各学会出展において、ICDP サイエンスプランの日本語版・英語版、ICDP グッズ、地熱利用研究に関するパンフレット等を配布し、陸上科学掘削の普及に努めた。
- ・ICDP Training Course の募集情報の周知・参加促進を行い、日本から 2 名が参加した。

#### 出版物等

- ・J-DESC Newsletter vol. 17（日本語）電子版を発行した。また、vol. 18（日本語）電子版の発行に向けて、目次の作成や寄稿依頼などの準備を進めた。
- ・メールニュース「J-DESC Update」を通じて各種最新情報を提供したほか、J-DESC ホームページ及び Facebook ページを効果的に活用した情報発信も行った。

収支計算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

日本地球掘削科学コンソーシアム  
・

(単位：円)

| 科 目          | 予算額         | 決算額        | 差 異         | 備 考         |
|--------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 【収入の部】       |             |            |             |             |
| 年会費          | 3,585,000   | 3,500,000  | 85,000      |             |
| 正会員          | 2,970,000   | 2,870,000  | 100,000     |             |
| 正会員 A        | 2,100,000   | 2,000,000  | 100,000     | 会費納入率 95%   |
| 正会員 B        | 870,000     | 870,000    | 0           | 会費納入率 100%  |
| 個人会員         | 15,000      | 30,000     | △ 15,000    | 会費納入率 100%  |
| 賛助会員         | 600,000     | 600,000    | 0           | 会費納入率 100%  |
| 雑収入          | 0           | 4,094      | △ 4,094     |             |
| 当期収入合計       | 3,585,000   | 3,504,094  | 80,906      |             |
| 【支出の部】       |             |            |             |             |
| 共通経費         | 4,963,040   | 2,374,112  | 2,588,928   |             |
| 会員提案型活動経費    | 300,000     | 116,524    | 183,476     |             |
| 広報活動費        | 1,708,040   | 881,875    | 826,165     |             |
| コアスクール開催費    | 1,455,000   | 766,095    | 688,905     |             |
| 会議開催費        | 60,000      | 0          | 60,000      |             |
| 調査費          | 150,000     | 0          | 150,000     |             |
| 通信費          | 30,000      | 8,616      | 21,384      |             |
| 雑費           | 70,000      | 57,640     | 12,360      | 残高証明、振込手数料等 |
| 謝金           | 60,000      | 0          | 60,000      |             |
| 事務局業務委託費     | 530,000     | 523,362    | 6,638       |             |
| 掘削提案・成果促進支援費 | 300,000     | 0          | 300,000     |             |
| 学生・若手参加奨励費   | 300,000     | 20,000     | 280,000     |             |
| 理事会活動経費      | 660,000     | 197,049    | 462,951     |             |
| 理事会活動経費      | 650,000     | 193,749    | 456,251     |             |
| 雑費           | 10,000      | 3,300      | 6,700       |             |
| I O D P 部会経費 | 528,000     | 0          | 528,000     |             |
| 執行部会活動経費     | 508,000     | 0          | 508,000     |             |
| 雑費           | 20,000      | 0          | 20,000      |             |
| I C D P 経費   | 427,000     | 0          | 427,000     |             |
| 執行部会活動経費     | 420,000     | 0          | 420,000     |             |
| 雑費           | 7,000       | 0          | 7,000       |             |
| 当期支出合計       | 6,578,040   | 2,571,161  | 4,006,879   |             |
| 当期収支差額       | △ 2,993,040 | 932,933    | △ 3,925,973 |             |
| 前期繰越収支差額     | 13,980,189  | 13,980,189 | 0           |             |
| 次期繰越収支差額     | 10,987,149  | 14,913,122 | △ 3,925,973 |             |

貸借対照表

2025年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位：円)

| 科 目        | 当年度        | 前年度        | 増 減         |
|------------|------------|------------|-------------|
| I 資産の部     |            |            |             |
| 1. 流動資産    |            |            |             |
| 現金預金       | 15,035,084 | 15,244,786 | △ 209,702   |
| 未収金        | 0          | 986,680    | △ 986,680   |
| 流動資産合計     | 15,035,084 | 16,231,466 | △ 1,196,382 |
| 資産合計       | 15,035,084 | 16,231,466 | △ 1,196,382 |
| II 負債の部    |            |            |             |
| 1. 流動負債    |            |            |             |
| 未払金        | 118,962    | 2,251,277  | △ 2,132,315 |
| 前受会費       | 3,000      | 0          | 3,000       |
| 流動負債合計     | 121,962    | 2,251,277  | △ 2,129,315 |
| 負債合計       | 121,962    | 2,251,277  | △ 2,129,315 |
| III 正味財産の部 |            |            |             |
| 正味財産合計     | 14,913,122 | 13,980,189 | 932,933     |
| 負債及び正味財産合計 | 15,035,084 | 16,231,466 | △ 1,196,382 |

日本地球掘削科学コンソーシアムの2024年度決算書類を監査した結果  
その処理は適正であったことをここに報告します。

2025年 5月2 日

監事 小村健太郎 

監事 池原 研 



財産目録

2025年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位：円)

| 貸借対照表科目 |             | 場所・物量等                | 金 額                    |
|---------|-------------|-----------------------|------------------------|
| (流動資産)  | 預金          | ゆうちょ銀行振替口座<br>三井住友/大塚 | 8,037,314<br>6,997,770 |
| 流動資産合計  |             |                       | 15,035,084             |
| 資産合計    |             |                       | 15,035,084             |
| (流動負債)  | 未払金<br>前受会費 |                       | 118,962<br>3,000       |
| 流動負債合計  |             |                       | 121,962                |
| 負債合計    |             |                       | 121,962                |
| 正味財産    |             |                       | 14,913,122             |

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 役員

| 2024 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 2025 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>会長：</b><br><u>益田 晴恵</u><br>(大阪公立大学 大学院理学研究科)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <b>会長：</b><br>益田 晴恵<br>(大阪公立大学 大学院理学研究科)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <b>IODP 部会長：</b><br><u>石橋 純一郎</u><br>(神戸大学)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <b>IODP 部会長：</b><br>石橋 純一郎<br>(神戸大学)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>ICDP 部会長：</b><br>藤原 治<br>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <b>ICDP 部会長：</b><br>藤原 治<br>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>理事：</b><br>池原 実<br>(高知大学 海洋コア国際研究所)<br>氏家 恒太郎<br>(筑波大学 生命環境系)<br><u>岡崎 裕典</u><br>(九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学<br>部門)<br>木下 正高<br>(東京大学地震研究所)<br>黒田 潤一郎<br>(東京大学大気海洋研究所)<br><u>戸丸 仁</u><br>(千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究<br>部門)<br>針金 由美子<br>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)<br>森下 知晃<br>(金沢大学 理工研究域地球社会基盤学類)<br>諸野 祐樹<br>(海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)<br><u>矢部 康男</u><br>(東北大学 大学院理学研究科／学術資源研究<br>公開センター)<br>山口 飛鳥<br>(東京大学大気海洋研究所) | <b>理事：</b><br>池原 実<br>(高知大学 海洋コア国際研究所)<br>氏家 恒太郎<br>(筑波大学 生命環境系)<br>岡崎 裕典<br>(九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学<br>部門)<br>木下 正高<br>(東京大学地震研究所)<br>黒田 潤一郎<br>(東京大学大気海洋研究所)<br>戸丸 仁<br>(千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究<br>部門)<br>針金 由美子<br>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)<br>森下 知晃<br>(金沢大学 理工研究域地球社会基盤学類)<br>諸野 祐樹<br>(海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)<br>矢部 康男<br>(東北大学 大学院理学研究科／学術資源研究<br>公開センター)<br>山口 飛鳥<br>(東京大学大気海洋研究所) |
| <b>監事：</b><br><u>池原 研</u><br>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)<br>小村 健太郎<br>(防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <b>監事：</b><br>池原 研<br>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)<br>小村 健太郎<br>(防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門)                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

## IODP 部会 執行体制

| 2024 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2025 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>部会長：</b><br><u>石橋 純一郎</u><br>(神戸大学)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <b>部会長：</b><br>石橋 純一郎<br>(神戸大学)                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <b>部会長補佐：</b><br>池原 実<br>(高知大学 海洋コア国際研究所)<br>針金 由美子<br>(産業技術総合研究所)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <b>部会長補佐：</b><br>池原 実<br>(高知大学 海洋コア国際研究所)<br>針金 由美子<br>(産業技術総合研究所)                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <b>部会執行委員：</b><br><u>井尻 暁</u><br>(神戸大学)<br>大坪 誠<br>(産業技術総合研究所)<br><u>神谷 奈々</u><br>(京都大学)<br>北村 真奈美<br>(産業技術総合研究所)<br>柵山 徹也<br>(大阪公立大学)<br><u>佐野 貴司</u><br>(国立科学博物館)<br>沢田 健<br>(北海道大学)<br>鈴木 紀毅<br>(東北大学)<br>中村 恭之<br>(海洋研究開発機構)<br>成瀬 元<br>(京都大学)<br><u>濱田 洋平</u><br>(海洋研究開発機構)<br>浜橋 真理<br>(山口大学)<br><u>福地 里菜</u><br>(鳴門教育大学)<br><u>松崎 賢史</u><br>(東京大学)<br><u>安川 和孝</u><br>(東京大学) | <b>部会執行委員：</b><br>井尻 暁<br>(神戸大学)<br>大坪 誠<br>(産業技術総合研究所)<br>神谷 奈々<br>(京都大学)<br>北村 真奈美<br>(産業技術総合研究所)<br>柵山 徹也<br>(大阪公立大学)<br>佐野 貴司<br>(国立科学博物館)<br>沢田 健<br>(北海道大学)<br>鈴木 紀毅<br>(東北大学)<br>中村 恭之<br>(海洋研究開発機構)<br>成瀬 元<br>(京都大学)<br>濱田 洋平<br>(海洋研究開発機構)<br>浜橋 真理<br>(山口大学)<br>福地 里菜<br>(鳴門教育大学)<br>松崎 賢史<br>(東京大学)<br>安川 和孝<br>(東京大学) |
| <b>専門部会長：</b><br>掘削航海： <u>濱田 洋平</u><br>(海洋研究開発機構)<br><br>科学推進： <u>井尻 暁</u><br>(神戸大学)                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <b>専門部会長：</b><br>掘削航海：濱田 洋平<br>(海洋研究開発機構)<br><br>科学推進：井尻 暁<br>(神戸大学)                                                                                                                                                                                                                                                               |

## ICDP 部会 執行体制

| 2024 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2025 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>部会長：</b><br/>藤原 治<br/>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p><b>部会長補佐：</b><br/><u>矢部 康男</u><br/>(東北大学)</p> <p><b>部会執行委員：</b><br/>浅沼 宏<br/>(産業技術総合研究所)<br/>大坪 誠<br/>(産業技術総合研究所)<br/>岡崎 啓史<br/>(広島大学)<br/>掛川 武<br/>(東北大学)<br/><u>下司 信夫</u><br/>(九州大学)<br/>後藤 和久<br/>(東京大学)<br/><u>齋藤 めぐみ</u><br/>(国立科学博物館)<br/>谷川 亘<br/>(海洋研究開発機構)<br/>橋本 善孝<br/>(高知大学)<br/><u>濱村 奈津子</u><br/>(九州大学)<br/>山田 泰広<br/>(九州大学)</p> | <p><b>部会長：</b><br/>藤原 治<br/>(産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p><b>部会長補佐：</b><br/>矢部 康男<br/>(東北大学)</p> <p><b>部会執行委員：</b><br/>浅沼 宏<br/>(産業技術総合研究所)<br/>大坪 誠<br/>(産業技術総合研究所)<br/>岡崎 啓史<br/>(広島大学)<br/>掛川 武<br/>(東北大学)<br/>下司 信夫<br/>(九州大学)<br/>後藤 和久<br/>(東京大学)<br/>齋藤 めぐみ<br/>(国立科学博物館)<br/>谷川 亘<br/>(海洋研究開発機構)<br/>橋本 善孝<br/>(高知大学)<br/>濱村 奈津子<br/>(九州大学)<br/>山田 泰広<br/>(九州大学)</p> |

## 専門部会体制

| 2024 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 2025 年度                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>掘削航海専門部会</b><br><br><b>専門部会長：</b><br><u>濱田 洋平</u> (海洋研究開発機構)<br><br><b>専門部会委員：</b><br><u>尾張 聡子</u> (東京海洋大学)<br><u>草野 有紀</u> (産業技術総合研究所)<br><u>桑野 太輔</u> (京都大学)<br><u>浜橋 真理</u> (山口大学)<br><u>村越 直美</u> (信州大学)<br><u>守屋 和佳</u> (早稲田大学)                                                                    | <b>掘削航海専門部会</b><br><br><b>専門部会長：</b><br>濱田 洋平 (海洋研究開発機構)<br><br><b>専門部会委員：</b><br>尾張 聡子 (東京海洋大学)<br>草野 有紀 (産業技術総合研究所)<br>桑野 太輔 (京都大学)<br>浜橋 真理 (山口大学)<br>村越 直美 (信州大学)<br>守屋 和佳 (早稲田大学)                                                                             |
| <b>科学推進専門部会</b><br><br><b>専門部会長：</b><br><u>井尻 暁</u> (神戸大学)<br><br><b>専門部会委員：</b><br>悪原 岳 (東京大学地震研究所)<br><u>岡崎 啓史</u> (広島大学)<br>奥村 知世 (高知大学)<br><u>桑野 太輔</u> (京都大学)<br><u>瀬瀬 佑衣</u> (名古屋大学)<br>千代延 俊 (秋田大学)<br><u>藤内 智士</u> (高知大学)<br><u>仲田 理映</u> (東京大学地震研究所)<br><u>星野 辰彦</u> (海洋研究開発機構)<br>山中 寿朗 (東京海洋大学) | <b>科学推進専門部会</b><br><br><b>専門部会長：</b><br>井尻 暁 (神戸大学)<br><br><b>専門部会委員：</b><br>悪原 岳 (東京大学地震研究所)<br>岡崎 啓史 (広島大学)<br>奥村 知世 (高知大学)<br>桑野 太輔 (京都大学)<br>瀬瀬 佑衣 (名古屋大学)<br>千代延 俊 (秋田大学)<br>藤内 智士 (高知大学)<br>星野 辰彦 (海洋研究開発機構)<br>山中 寿朗 (東京海洋大学)<br><u>※1 名退任 (国外機関に転出のため)</u> |

## 部会名の変更について（案）

### 【審議・確認事項】

- ・ IODP 部会名称変更：新名称「海洋掘削部会」とする。
- ・ 組織・名称変更に伴い、規則（別紙1）、規約（別紙2）を改定する。
- ・ ICDP 部会の名称変更は行わない。（確認事項）

### 【名称変更の理由・背景】

- ・ IODP が 2024 年をもって終了した。2025 年からは新たに日本と ECORD が主導する IODP<sup>3</sup>が発足予定であり、一方、米国や中国はそれぞれ独自の海洋科学掘削プログラムを立ち上げている。今後は、これら並存する複数の国際枠組みへの対応が求められる。このため、特定の国際プログラムを意味する IODP から、より広く海洋科学掘削全般を対象とする名称に変更することが望ましい。
- ・ これに伴い、ICDP 部会においても名称変更の意向について検討が行われたが、執行委員会での検討の結果、ICDP 部会の名称変更は提案されなかった（詳細は下記経緯を参照）。
- ・ 部会名称の変更には、J-DESC 規約および部会規則の改定が必要であり、J-DESC 総会における審議案件となるため、2025 年 5 月 12 日の定例総会に付議する。

### 【経緯】

1. 2024 年度第 2 回 IODP 部会執行委員会にて議論  
開催日時： 2024 年 11 月 22 日（金） 10：00～12：00  
議題 6：IODP<sup>3</sup>開始に向けた国内準備と推進策  
IODP<sup>3</sup>への変更やアメリカ・中国での新しい組織の立ち上げに伴い、名称の変更を議論した。  
【Consensus Item\_20241122-04】2025 年度以降、IODP 部会の名称を、海洋掘削部会に変更する方向で理事会に提案することを合意。
2. 2024 年度第 2 回 ICDP 部会執行委員会にて議論  
開催日時： 2024 年 12 月 25 日（水） 10：00～12：00  
議題 3：J-DESC 関連会議の情報共有  
第 2 回 IODP 部会で名称変更について議論され、ICDP 部会でも名称変更について議論を行い、次回 J-DESC 総会までに意見をまとめることとした。  
【Action item\_20241225-01】ICDP 部会名の変更について、Basecamp を通じて理由を添えた投票を行い、審議のうえ決定する。
3. ICDP 部会・Basecamp にて議論  
期間：2024 年 3 月 24 日（月）～4 月 2 日（水）  
内容：第 3 回委員会（4/2）までに、部会名の変更に関する意見を集約し、委員会の場で最終決定を行う。  
【意見】変更する 3 名、変更しない 2 名、変更する場合の名称候補は、陸上掘削部会、陸上科学掘削部会（条件付き）

4. 2024 年度 第 3 回 ICDP 部会執行委員会にて議論  
開催日時： 2025 年 4 月 3 日(木) 14:00～16:00  
議題 3: J-DESC 関連会議の情報共有  
総会前の理事会で承認をとる必要があるため、名称を投票で決める。委員は、陸上掘削部会、陸上科学掘削部会、ICDP 部会の 3 つから選んで投票することとなった。  
**【Action item\_20250403-01】** ICDP 部会名の変更について執行委員の投票を行い、審議のうえ決定する。
5. ICDP 部会・Basecamp にて周知、Google フォーム経由で投票  
期間：2024 年 4 月 16 日(水)～4 月 22 日(火)  
投票結果：変更する 6 名（変更後名称：陸上科学掘削部会 4 名、陸上掘削部会 0 名、どちらでも良い 2 名）、変更しない 6 名、無回答（今後の活動次第）1 名  
**【ICDP 部会長による最終決定】** 部会の名称はこれからの活動方針次第であり、ICDP 本部との連携を強めていく方向である為、名称は「変更なし」とする。
6. 2024 年度第 4 回 J-DESC 理事会にて議論  
開催日時：2025 年 5 月 7 日(水) 15:00～16:30  
議題 2: 部会名の変更に関する審議  
両部会の結論を踏まえて、IODP 部会名の変更及びそれに伴う規約類の変更に関する定例総会への付議案の審議依頼があった。部会名の変更については挙手（オンライン）にて議決を行った。  
**【Consensus item 250507-02】** IODP 部会名を「海洋掘削部会」に変更しそれに伴い規約類を変更、ICDP 部会名は変更なし、で定例総会へ付議する事を合意した。

以上

日本地球掘削科学コンソーシアム ~~IODP 部会~~海洋掘削部会 規則

## (部会の設置)

第1条 日本地球掘削科学コンソーシアム規約（以下「規約」という。）第13条に基づき、日本地球掘削科学コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）に ~~IODP 部会~~海洋掘削部会（以下「部会」という。）を設置する。

## (目的)

第2条 部会は、主として 国際深海科学掘削計画国際海洋科学掘削計画（以下「~~IODP~~IODP<sup>3</sup>」という。）等の海洋科学掘削共同プログラムを円滑に推進し、規約第3条に定める研究機関等及び研究者等が実施する海洋科学掘削に関わる活動の有機的な連携及び活性化を図るため、科学面での検討・支援を行うことを目的とする。

## (活動)

第3条 部会は、前条の目的を達成するために、以下の活動を行う。また、次の各号に定める事項以外の活動を行う場合は、理事会の承認を必要とする。

- (1) ~~IODP~~IODP<sup>3</sup>関連の国際委員の理事会への推薦
- (2) 日本を中核とする海洋科学掘削提案の支援と提言
- (3) ~~IODP~~IODP<sup>3</sup>における航海及び Scientific Projects using Ocean Drilling Archives（以下「SPARCs」という。）の乗船参加研究者の推薦と支援
- (4) ~~IODP~~IODP<sup>3</sup>海洋科学掘削の啓発と研究成果の公開
- (5) 必要に応じて、目的達成に関連する事項を検討する委員会・専門部会等の設置を理事会に提言する。

## (部会長)

第4条 規約第14条に基づき、部会に部会長1名を置く。

2 部会長の選任は、規約第15条に定めるところによる。

3 部会長の職務は、規約第18条に定めるところによる。

## (部会長補佐)

第5条 部会に部会長補佐を1名以上置く。部会長補佐は、部会長の推薦に基づき、理事会で選任・解任する。

2 部会長補佐の任期は、選任時から部会長補佐を推薦した部会長の退任時までとし、再任を妨げない。

3 部会長補佐は、部会長の業務を補佐し、部会長に事故のある場合及び部会長の要請がある場合には、その職務を代行する。

## (執行委員会)

第6条 規約第13条第3項に基づき、部会のうちに執行委員会を置く。

2 執行委員会は、部会の活動を取りまとめ、会務の執行を主導する。また、



部会の運営及び活動に関わる事柄について協議し、必要に応じて理事会に提案する。

- 3 執行委員会は部会長、部会長補佐および部会長が指名する若干名の執行委員から構成され、理事会にかける原案作成や理事会での決定事項を執行する。
- 4 執行委員の任期は、選任時から執行委員を指名した部会長の退任時までとし、再任を妨げない。

(執行委員会の開催)

第7条 執行委員会は、部会長が招集し、議長は部会長がこれにあたる。

- 2 執行委員会は、執行委員会構成員（部会長、部会長補佐及び執行委員）の過半数の出席をもって成立する。但し、ウェブ会議システム、テレビ会議システム又は電話会議システムを用いた遠隔からの出席を含む。
- 3 審議事項は、出席者と委任状（メールでも可）を加えた数の過半数をもって決する。
- 4 執行委員会は、議決に緊急を要する案件を審議する場合、執行委員会構成員全員の電子メールの交信により審議し、議決することができる。この場合、執行委員会構成員の過半数をもって決するものとする。

(会計担当者)

第8条 執行委員会のうちに会計担当者を置くことができる。

- 2 会計担当者は、部会長が推薦し、財務担当理事が承認する。

(部会事務局)

第9条 部会運営に関する事務は規約第5条第2項に基づく総合事務局が実施する。

(規則の変更)

第10条 本規則の変更については、執行委員会にて変更案を決定し、理事会及び会員総会で承認されることにより、有効となる。

(細則)

第11条 理事会がその必要を認めた場合、部会の運営に必要な事項について別に定めることができる。

附則

(施行)

- 1 この規則は、平成16年4月4日より施行する。

附則

(施行)

1 この規則は、平成19年4月8日より施行する。

附則

(施行)

1 この規則は、平成22年4月4日より施行する。

附則

(施行)

1 この規則は、平成26年4月27日より施行する。

附則

(施行)

1 この規則は、令和元年5月26日より施行する。

附則

(施行)

1 この規則は、令和7年5月12日より施行する。

## 日本地球掘削科学コンソーシアム規約

### (名称)

第1条 本団体は、日本地球掘削科学コンソーシアム（Japan Drilling Earth Science Consortium；以下「コンソーシアム」という。）と称する。

### (目的)

第2条 地球掘削科学とは、地下から試料やデータを得る掘削という手法が地球惑星システムの解明に寄与する全ての科学分野とする。

2 コンソーシアムは、地球掘削科学を総合的・計画的に推進するため、産官学民の研究機関、法人及び団体（以下「研究機関等」という。）並びに研究者、技術者、教育者、メディア関係者等（以下「研究者等」という。）の自発的な集合・運営のもと、地球掘削科学の推進に係る企画を提案するとともに、各研究機関等及び研究者等が実施する活動の有機的な連携を図り、もって地球掘削科学の発展に寄与することを目的とする。

### (活動)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 地球掘削科学に関する科学計画の作成及び作成支援
- (2) 会員等が実施する地球掘削科学に関する活動の有機的な連携
- (3) ~~国際深海科学掘削計画（IODP）~~国際海洋科学掘削計画（IODP<sup>3</sup>）及び国際陸上科学掘削計画（ICDP）並びに我が国が参加する地球掘削科学に関する国際プロジェクトへの支援及び協力
- (4) 地球掘削科学に関する普及広報及び教育活動の実施
- (5) 地球掘削科学の推進に資する研究教育基盤の検討と提案
- (6) 前各号に掲げる事項に関する関係機関への提言
- (7) 地球掘削科学に関する内外の関係機関、団体等との交流及び協力
- (8) 前各号に掲げるもののほか、コンソーシアムの目的を達成するために必要な活動

### (事業年度)

第4条 コンソーシアムの事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### (事務局)

第5条 コンソーシアムに次の事務局を置く。

- (1) 総合事務局
- (2) 会員・会計管理事務局
- 2 総合事務局は、国立研究開発法人海洋研究開発機構研究プラットフォーム運用~~開発~~部門に置く。
- 3 会員・会計管理事務局は、コンソーシアムが会員業務及び会計業務を委託する法人に置く。委託する法人は、別途定める。

(会員)

第6条 コンソーシアムは、次の会員で構成する。

- (1) 正会員：コンソーシアムの目的に賛同し、その活動に積極的に関与・協力する意思のある非営利の研究機関等若しくはその下部組織・部署等
- (2) 個人会員：コンソーシアムの目的に賛同し、その活動に積極的に関与し協力する意思のある個人
- (3) 賛助会員：コンソーシアムの目的に賛同し、要請に応じてその活動に協力する意思のある法人（営利企業を含む）
- 2 正会員は、コンソーシアムに対して会員を代表し、議決権を含む会員の権利を行使し、コンソーシアムとの連絡を担当する代表担当者1名を定めるものとする。また、代表担当者を変更したときは、速やかにその旨を総合事務局に届け出なければならない。
- 3 賛助会員は、コンソーシアムとの連絡を担当する連絡担当者1名を定めるものとする。また、連絡担当者を変更したときは、速やかにその旨を総合事務局に届け出なければならない。

(会員の権利及び義務)

第7条 正会員及び賛助会員に所属する者並びに個人会員（以下「会員構成員」という。）は、以下の権利を有する。

- (1) コンソーシアムの定期刊行物の配布を優先的に受ける権利
- (2) コンソーシアムの主催する事業に優先的に参加する権利
- (3) コンソーシアムの主催する事業のうち、旅費等の財政的支援があるものについて、当該支援を申請する権利
- (4) コンソーシアムの会員提案型活動経費を用いた活動を提案する権利
- 2 会員構成員は、以下の義務を負う。
  - (1) 会費を納入する義務
  - (2) 本規約及びコンソーシアムの定める規則・細則等を遵守する義務
  - (3) 科学研究に相応しい公平公正な倫理を遵守する義務

## (入会)

第8条 コンソーシアムへの入会を希望する者は、所定の入会申込書を総合事務局に提出し、第9条に定める当該年度の会費を指定の手続きで納入しなければならない。

## (会費)

第9条 会員は、原則として、下記に定める会費を年度始めごとに納めるものとする。

- (1) 正会員：年 100,000円
  - (2) 個人会員：年 3,000円
  - (3) 賛助会員：年 1口 50,000円 とし、原則2口以上を申し込みの口数とする。
- 2 掘削科学に関わる対象構成員が10名に満たない正会員は、総合事務局への申し立てにより、理事会による承認の上で30,000円に減額することができる。この場合において、対象構成員に学生は含まない。なお、会計上の呼称として、会費100,000円納付の正会員を正会員A、30,000円納付の正会員を正会員Bとする。
- 3 会員は、年度の途中で入会又は退会した場合であっても、当該年度の会費を納めなければならない。
- 4 コンソーシアムは、既納の会費はいかなる理由があっても返還しない。
- 5 会員種別変更は原則申し出があった年の翌年度からの適用とし、事情により当該年度からの適用の要望があった場合は、理事会審議とする。

## (退会)

第10条 コンソーシアムから退会を希望する会員は、所定の退会届を総合事務局に提出しなければならない。

- 2 コンソーシアムは、会員が次の各号の一に該当する場合には、その会員が退会したものとして扱う。
- (1) 3年以上会費を滞納したとき。
  - (2) 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が解散したとき。
  - (3) その他会員総会において、退会したものとして扱うべき正当な事由があると決議されたとき。
- 3 会員は、退会時に未納の会費その他の未履行の義務があった場合、退会後も、これを完遂する義務を負う。

- 4 コンソーシアムを退会後に再び入会を希望する者は、未納の会費その他の未履行の義務があった場合、当該義務を完遂するまで再入会することができない。

(会員総会)

第11条 会員総会は、正会員をもって構成し、会長が招集する。

- 2 会員総会は、この規約に別に定めるもののほか、次の事項について審議・議決する。
- (1) 活動報告及び収支決算
  - (2) 活動計画及び収支予算
  - (3) その他コンソーシアムの運営に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
- 3 会員総会は原則として毎年1回、定例総会を開催する。定例総会のほか、正会員の半数以上の要求又は理事会で必要が認められた場合、臨時総会を開催することができる。
- 4 会員総会の定足数は、次の各号を含む正会員の過半数とする。
- (1) 正会員の代表担当者の出席
  - (2) 正会員の代表担当者が委任状により指名した代理人の出席
  - (3) 正会員の代表担当者からの委任状による議長への議決権の委任
  - (4) 正会員の代表担当者又は代表担当者が指名した代理人による、ウェブ会議システム、テレビ会議システム又は電話会議システムを用いた遠隔からの議決への参加
- 5 会員総会の議長は、その都度、出席正会員の互選で定める。
- 6 会員総会の議事は、この規約に別段の定めがある場合を除き、出席正会員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。
- 7 正会員又は賛助会員に所属する者並びに個人会員は、会員総会に出席し、意見を述べることができる。

(電磁的方法による総会議事の議決)

- 第12条 会員総会において議決が必要であり、かつ、議決に緊急を要すると理事会が認めた事項は、正会員の代表担当者による電子メールその他の電磁的方法による議決をもって、臨時総会の開催に代えることができる。
- 2 電磁的方法による議決は、正会員の過半数が電磁的方法による意思表示を行った場合に成立するものとする。また、意思表示を行った正会員の過半数をもって当該議事を決するものとする。

- 3 電磁的方法によって議決された事項は、速やかに個人会員及び賛助会員に周知しなければならない。

(部会)

- 第13条 コンソーシアムは、第3条に定める活動を円滑かつ効果的に推進するため、複数の会員の集合により構成される部会を設置する。
- 2 部会は、会員総会で決定された活動計画及び理事会で決定された執行方針に基づいて活動する。
  - 3 部会には、第14条第1項第(2)号に定める部会長及び部会長が指名する若干名で構成する執行委員会を置く。執行委員会は、部会の活動を取りまとめ、会務の執行を主導する。また、部会の運営及び活動に関わる事柄について協議し、必要に応じて理事会に提案する。
  - 4 部会の設置にあたっては、5名以上の正会員代表担当者の署名により、部会長の候補者名を記載した設立申請書を会長に提出するものとする。設立申請に基づき、理事会で部会設立を審査し、会員総会で承認する。
  - 5 会員は1つ以上の部会に所属することを原則とする。所属する部会は、コンソーシアム入会時に入会申込書に明記するものとする。既にコンソーシアムに入会している会員が、それまで所属していなかった部会に新たに参加する場合、及びそれまで所属していた部会より脱退する場合には、コンソーシアムの定める所定の手続きを取るものとする。
  - 6 部会の組織・運営の詳細については、部会ごとに別に定める。

(役員の設置)

第14条 コンソーシアムに、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 部会長 各部会につき1名
- (3) 理事 7名以上11名以内
- (4) 監事 2名

(役員の選任)

- 第15条 会長は、正会員に所属する者から自薦及び他薦により候補者を募り、正会員の投票により決定する。
- 2 部会長は、当該部会を構成する正会員に所属する者から自薦及び他薦により候補者を募り、正会員の投票又は会員総会での議決により決定する。
  - 3 理事及び監事は、正会員に所属する者から自薦及び他薦により候補者を募り、正会員の投票又は会員総会での議決により決定する。

- 4 監事は、他の役員又は部会の執行委員を兼ねることはできない。
- 5 役員の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定例総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

(役員の任期中の退任)

第16条 会長が任期中に退任し、かつ当該役員の残り任期が6か月以上であった場合、候補者の再募集により後任者を選任する。

2 部会長が任期中に退任し、かつ残り任期が6か月以上であった場合、理事会の互選により理事の中から、もしくは候補者の再募集により、後任者を選任する。

3 監事及び理事が任期中に退任して第14条に定める定数を下回り、かつ当該役員の残り任期が6か月以上であった場合、当該役員選任時の他の候補者からの繰り上げ、もしくは候補者の再募集により、後任者を選任する。

4 会長が任期中に退任する場合において、後任者が選任されない期間は、理事会の互選により部会長または理事の中から選任された者がその職務を代行することができる。

3 部会長が任期中に退任する場合において、後任者が選任されない期間は、部会長補佐がその職務を代行することができる。

4 理事が任期中に退任し、かつ第14条に定める定数を下回らない場合であっても、会務遂行上必要であれば当該役員選任時の他の候補者からの繰り上げ、もしくは候補者の再募集により、後任者を選任することができる。

5 再募集による選任方法は、第15条第1項から第3項に準ずる。

6 後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(会長の職務)

第17条 会長は、コンソーシアムを代表し、本規約に定めるところにより、コンソーシアムの会務を整理・総括する。

(部会長の職務)

第18条 部会長は、各部会を代表し、本規約及び部会ごとに別に定める規則により、部会の会務を整理・総括する。

(理事の職務)

第19条 理事は、理事会を構成し、本規約に定めるもののほか、会員総会で承認された活動計画に従って、具体的な会務執行方針の審議及び決定を行う。



- 2 理事のうちに総務担当理事、科学戦略担当理事、財務担当理事、外務担当理事、広報教育担当理事を置く。各担当理事は、自らの所掌する会務に関して、理事会での審議及び方針決定を主導し、また決定した方針の執行について監督・助言する。
- 3 総務担当理事は2名以上3名以内とし、次の会務を所掌する。
  - (1) 会員の維持・拡大及び会員の状況に関する情報収集に関すること
  - (2) 会員間の情報共有に関すること
  - (3) 会員総会及び理事会の開催に関すること
  - (4) 理事の業務のうち、他の理事の業務に含まれないもの
- 4 科学戦略担当理事は2名以上3名以内とし、次の会務を所掌する。
  - (1) 地球掘削科学の発展に寄与する戦略に関すること
  - (2) 会員等が実施する地球掘削科学に関する活動の有機的な連携を促進する戦略に関すること
  - (3) 地球掘削科学に関する科学計画の作成及び作成支援に関すること
  - (4) 地球掘削科学の推進に資する研究基盤の検討及び提案に関すること
  - (5) 前各号に掲げる事項に関する関係機関への提言に関すること
- 5 財務担当理事は1名とし、次の会務を所掌する。
  - (1) 会費の徴収に関すること
  - (2) コンソーシアムの資産の管理に関すること
  - (3) 会計の業務に対する監督及び助言
- 6 外務担当理事は1名以上3名以内とし、次の会務を所掌する。
  - (1) 我が国が参加する国際プロジェクトへの支援及び協力に関すること
  - (2) 地球掘削科学に関する内外の関係機関、団体等との交流及び協力に関すること
- 7 広報教育担当理事は1名以上2名以内とし、次の会務を所掌する。
  - (1) コンソーシアムの広報に関すること
  - (2) 地球掘削科学に関する普及広報及び教育活動の実施に関すること

(監事の職務)

第20条 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) コンソーシアムの会務並びに財産及び会計の状況を監査すること。
- (2) 会長、部会長及び理事の職務執行を監査すること。
- (3) 会員総会及び理事会に出席し、必要あると認めるときは意見を述べること。
- (4) 理事会が会員総会に提出しようとする議案及び報告を調査すること。

- (5) 会長、部会長又は理事が法令又は本規約に違反する行為、若しくはそれに準ずる不正と認められる行為をしたと認めるときは、これを会員総会に報告すること。
- (6) コンソーシアムの活動において、法令又は本規約に違反する事実があると認めるときは、これを会員総会に報告すること。

#### (理事会)

第21条 理事会は、会長、部会長及び理事をもって構成し、会長が必要と認めたときに並びに部会長又は監事から会長に招集の請求があったときに招集する。

- 2 理事会は、本規約に別に定めるもののほか、次の事項を審議し、出席者全員の合意により決定する。
  - (1) 会員総会の議決した活動計画及び収支予算に基づく活動の執行に関する事項
  - (2) その他会員総会の議決した事項の執行に関する事項
  - (3) 部会執行委員会から提案を受けた事項
  - (4) コンソーシアムの運営に関する事項のうち、会員総会議決を要しないもの
- 3 理事会は、前項により決定した事項に関連する部会執行委員会に通達し、その執行を指示する。
- 4 理事会は、コンソーシアムの運営に関する事項のうち、会員総会での議決が必要な事項と認めるものを会員総会に附議する。
- 5 理事会の議長は、会長がこれにあたる。会長に事故等があり出席できないときは、理事の互選により選任する。
- 6 理事会への出席は、ウェブ会議システム、テレビ会議システム又は電話会議システムを用いて行うことができる。
- 7 理事会の定足数は、理事会構成員の総数の過半数とする。但し、ウェブ会議システム、テレビ会議システム又は電話会議システムを用いた遠隔からの参加を含む。
- 8 理事会は、緊急を要する案件を審議する場合において、その案件について理事会構成員の全員が電子メールその他の電磁的方法により同意の意思表示をしたときは、その案件を可決する旨の理事会の決定があったものとみなす。
- 9 理事会に関する必要な機能については、改めて定めるものとする。

#### (資産の管理及び会計)

第22条 会員から納付された会費からなる資産は、会員・会計管理事務局で管理する。

2 資産の運用に関する総括責任者は会長とする。

3 収支予算は、財務担当理事が作成し、理事会の承認を受けた上で会員総会に附議する。

4 予算の執行は、会員総会で議決された収支予算の範囲内において、財務担当理事が決定し、各部会執行委員会の会計担当者、若しくは会計担当者の指示を受けた総合事務局が執行する。

5 総合事務局は、各部会執行委員会の会計担当者の予算の執行に関する業務を支援する。

(規約の変更)

第23条 本規約の変更については、理事会にて変更案を決定し、会員総会で出席者の4分の3以上の賛成をもって承認されることにより、有効となる。

(細則)

第24条 コンソーシアムの運営に関して必要な事項については、別に定めるものとする。

附則

(施行)

1 この規約は、平成16年4月4日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、平成19年4月8日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、平成22年4月4日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、平成24年4月1日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、平成26年4月27日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、平成30年5月20日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、令和元年5月26日より施行する。

附則

(施行)

1 この規約は、令和7年5月12日より施行する。

2025 年 5 月 12 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 2025 年度活動方針（案）

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

日本地球掘削科学コンソーシアムの基本的活動を発展させ、社会的課題に資する科学成果の創出と国民への浸透を目指す。今年から始まった国際海洋科学掘削計画（IODP<sup>3</sup>）及び国際陸上科学掘削計画（ICDP）の主要国として、国際連携の強化、科学提案の促進、次世代研究者の育成により、日本のプレゼンスを内外に示す。

| 理事会の開催                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| J-DESC 規約に従い、必要に応じて理事会を適宜開催し、重要事項の審議・決定を行う。                                                                                                                                                                                                               |
| 総務関連                                                                                                                                                                                                                                                      |
| J-DESC の組織運営に関する検討                                                                                                                                                                                                                                        |
| J-DESC の組織運営について、効率的かつ効果的な運営を目指し、部会やタスクフォースなどを含めた組織及びその規約等について俯瞰し、必要に応じて整理・最適化を図る。                                                                                                                                                                        |
| J-DESC の活動活性化に関する検討                                                                                                                                                                                                                                       |
| 2025 年から開始された IODP <sup>3</sup> の円滑なスタートアップに貢献できるよう、新たな体制のもとでの地球掘削科学研究の推進や国際連携の深化に向けた具体的な活動を模索・検討する。将来の地球掘削科学を担う人材、及び「国連海洋科学の 10 年」活動を始めとする一般への認知拡大を含めた J-DESC の活動活性化の形について、様々な観点から検討する。<br>科学戦略、財務、外務、広報・教育の各会務の連携を図り、会員へのサービスや組織の活性化に資する効果的な活動を維持・推進する。 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科学戦略関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 地球掘削科学の振興と日本からの研究提案力の強化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| IODP <sup>3</sup> 及び ICDP が掲げる科学掘削研究の将来計画と連動して、これらの科学掘削計画を支える健全で活力あるコミュニティの維持と拡大を図る。具体的には、掘削科学に関するアイデアの新規発掘・育成や、掘削科学提案の新規作成への支援を行うとともに、これらの推進に資する集会・シンポジウムなどの積極的な企画・開催に取り組む。特に IODP <sup>3</sup> の開始にあたり、コアメンバーとして、日本の研究者グループからの科学掘削提案の提出とプロジェクトへの参加を積極的に促進する。また、既存コア・データを活用する枠組み（SPARCs、ReCoRD など）についても、新たなガイドライン・公募要領等に基づき、積極的な活用を促す。さらに、JpGU や各種学会等において、掘削科学の研究成果を積極的に発信し、論文として公表することを強く奨励する。 |
| 財務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 年度予算の策定・運用                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>J-DESC の財政及び活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定する。策定した予算の効果的かつ適切な運用を行うとともに、将来を見据え収入を維持・拡大するために必要な施策を検討・提案する。</p> <p>会員提案型活動経費については、財務担当理事、IODP 部会選出委員、ICDP 部会選出委員からなる審査委員会による審査を通じて、公平性に留意しつつも、ボトムアップの提案を推進するために適切に運用する。</p> <p>IODP<sup>3</sup> の動向を注視しながら、国内の掘削科学コミュニティを支援するための資金確保を積極的に行うとともに、適切な管理・運用を行う。</p>                                                                                             |
| 外務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 日欧主導の IODP <sup>3</sup> において、日本に求められる役割の増大を踏まえ、日本のプレゼンスの発揮と実施基盤の確立を図る。総務と連携し、国際委員会と国内委員会を対応させる。また、掘削研究の実現のための新たな実施モデル構築に向け、国内外の研究連携の強化を支援する。                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 広報・教育関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

IODP<sup>3</sup> の開始に合わせ、各種普及・広報・教育活動を行う。会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を進める。特に、以下の事項を強化する。

- ・ IODP<sup>3</sup> における最初の地球深部探査船「ちきゅう」航海である第 502 次及び 503 次研究航海等の機会を捉え、積極的なアウトリーチ・教育活動を展開する。
- ・ スクールやワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大を図る。また、海外で行われるサマースクール等への参加支援制度の拡充を図る。
- ・ YouTube などの各種広報コンテンツの充実を図る。
- ・ 科学リテラシーの向上や知的交流を目的とした大型のイベント企画（科学フェスティバルや関連テーマの博覧会など）に参加することで、市民向けのアウトリーチを充実させる。

2025 年 5 月 12 日

日本地球掘削科学コンソーシアム IODP 部会  
2025 年度活動方針（案）

IODP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・ICDP 部会と連携し、IODP 部会の基本的活動を維持発展しつつ、国際海洋科学掘削計画（IODP<sup>3</sup>）の開始を始めとする国内外の情勢変化に対応しながら、従来の活動を継承しつつ、活力ある海洋掘削科学コミュニティの形成と発展に向けた新規活動を創出・企画する。

執行委員会の開催・総務関連

- ・ IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、検討結果を理事会に報告する。
- ・ 掘削航海専門部会及び科学推進専門部会との緊密な連携により、部会活動を組織的かつ戦略的に展開する。

科学戦略関連

健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大

- ・ 2020 年に発行された「海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワーク」（2050 Science Framework）に基づいた掘削提案の立案をコミュニティに積極的に働きかける。
- ・ IODP<sup>3</sup> で新たに制度設計されたプロポーザルの提出、評価、実施に至るプロセスをコミュニティに周知し、日本発の科学掘削・SPARC<sup>s</sup> 提案の育成及び実施に繋げるための支援を積極的に行う。
- ・ レガシーコア・データを活用する国際共同研究の枠組み（SPARC<sup>s</sup>、ReCoRD）について、新たなガイドライン・公募要領等に基づき、積極的な活用を促す。
- ・ マントル掘削ワーキンググループの活動を継続し、海洋科学掘削におけるフロンティア領域である岩石圏を対象とした多様な掘削調査提案の創出を目指す。
- ・ IODP 部会から選出された審査委員を通じて会員提案型活動経費審査を行



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| い、公平性に留意しつつボトムアップの提案を推進する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 外務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| IODP <sup>3</sup> に関わる対外的な活動及び支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IODP<sup>3</sup>の始動にあたり、理事会及び JAMSTEC 等と連携しつつ、欧州海洋掘削研究コンソーシアム（ECORD）との協議を継続し、IODP<sup>3</sup>の持続的な活動を推進する。</li> <li>・ IODP<sup>3</sup>に設置される SEP (Science Evaluation Panel)、SEA Group (Safety and Environment Advisory Group)等の国際委員候補者の推薦を行う。</li> <li>・ 上記 IODP<sup>3</sup>の国際委員会等及び海洋科学掘削に関する各種国際会合（Scientific Drilling Forum 等）に委員・オブザーバーを送り、IODP<sup>3</sup>の推進にかかる国際協力と海洋科学掘削に関する国際動向把握に努める。</li> </ul>         |
| 広報・教育関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 若手育成・研究コミュニティの底辺拡大                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J-DESC コアスクールを実施し、科学掘削研究の基本的ノウハウの共有とコミュニティ拡大を進める。</li> <li>・ IODP/IODP<sup>3</sup>航海に応募した大学院生の評価及び乗船者に選ばれた際の支援（プレクルーズトレーニング・メンター制度）について、制度の運用状況を検証し、必要に応じて改定する。</li> <li>・ レガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度を適切に運用し、リポジトリコア再解析プログラム（ReCoRD）をはじめとした高知コアセンター（KCC）での海洋コアサンプリングへの大学院生・若手研究者の参加を支援する。</li> <li>・ 高知大学海洋コア国際研究所ほかによる JSPS 研究拠点形成事業「国際海洋科学掘削スクールを核とした温暖期気候変動研究交流拠点」と連携し、大学院生及び若手研究者の育成と、国際交流の促進を積極的に支援する。</li> </ul> |
| 広報・アウトリーチ活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会と協力し、大型のイベント企画への参加など、海洋科学掘削に関する市民向けのアウトリーチ活動を充実させる。</li> <li>・ 理事会と協力し、日本地球惑星科学連合 2025 年大会・日本地質学会第 132 年学術大会などの各種学会へ出展し、海洋科学掘削の活動を広報する。</li> <li>・ J-DESC Newsletter の発行に協力する。</li> <li>・ メールニュース「J-DESC Update」、J-DESC ホームページ、Facebook、</li> </ul>                                                                                                                                                               |

YouTube J-DESC Channel などの IT メディアを用いた情報発信、広報活動に協力する。

- ・ 2025 年度に実施される地球深部探査船「ちきゅう」を用いた航海における中継イベント等を促進する。
- ・ 関係機関による IODP<sup>3</sup> 航海やその研究成果に関するプレスリリースへ協力する。
- ・ 「国連海洋科学の 10 年」に関連して海洋掘削科学リテラシーの向上に資する活動を推進する。

2025 年 5 月 12 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム ICDP 部会 2025 年度活動方針（案）

ICDP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・IODP 部会との連携、ならびにコンソーシアム参加機関との協力を通じて、ICDP 部会の基本的活動を継承しつつ、ICDP Science Plan (2020-2030) の達成に向けた掘削提案の育成強化や、IODP3 との連携に向けた活動を創出・企画する。

| 執行委員会の開催・総務関連                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告する。                                                                           |
| 科学戦略関連                                                                                                                          |
| 地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化                                                                                                           |
| ・日本発の ICDP プロジェクトの更なる増加のため、「ICDP 掘削提案サポート制度」等の仕組みを活用し、新しいアイデアの発掘・育成や新規掘削提案の作成・強化を積極的に支援する。また、これらの取り組みに貢献する集会・シンポジウム等も企画・開催していく。 |
| ・日本地球惑星科学連合 2025 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し 2026 年大会のセッション提案を行う。                                                                     |
| ・ICDP Science Plan (2020-2030) の達成や IODP <sup>3</sup> との連携を強めるために、日本の特性や強み（海と陸が接する多様な自然条件など）を活かした研究戦略や提案を積極的に発信する。              |
| ・2025 年度に実施が予定されている ICDP プロジェクト、ワークショップ、トレーニングコース等への日本から参加を促進する。                                                                |
| ・日本の研究者が関わった ICDP 関連成果の取りまとめと広報を引き続き実施する。                                                                                       |
| ・ICDP 部会から選出された審査委員を通じて、会員提案型活動経費審査を行い、公平性に留意しつつボトムアップの提案を推進する。                                                                 |
| 財務関連                                                                                                                            |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行う。</li> <li>・会員提案型活動経費への募集・選定・採択を適正に行い、各種会員活動を活性化させる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 外務関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ICDP に関わる対外的な活動及び支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICDP の Assembly of Governors (AOG)、Executive Committee (EC)、Science Advisory Group (SAG)の日本選出委員を通じて、ICDP の国際情勢について情報収集を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映する。</li> <li>・SAG の日本選出委員候補者の戦略的な検討を行う。</li> <li>・2022 年度に更新した MoU に基づき、継続的に ICDP を牽引し、参加主要国として、日本発の掘削提案書の増進に努める。</li> <li>・現行の MoU が 2026 年 3 月に期限を迎えることを踏まえ、国内コミュニティの意思のとりまとめや成果情報収集、関連機関との調整など、MoU の更新に向けた準備を進める。</li> </ul> |
| 国内外コミュニティの交流・連携促進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会、IODP 部会と連携し、J-DESC タウンホールミーティング等のコミュニティの交流促進イベントを開催する。</li> <li>・国際コミュニティのイベント・集会等への日本の Early Carrier Researcher の参加を促進し、積極的な情報収集・交流を行う。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                            |
| 広報・教育関連                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 過去の成果の幅広い広報、新規活動の創出・企画の検討                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラボ体験や研究者との対話など実践的な学びとオンラインでのイベントの両面を通じて、深い理解と探究心を育む機会を社会に提供する。</li> <li>・大学生・大学院生、Early Carrier Researcher の関心領域やキャリア志向に応じて、ハイブリッド型の普及・教育活動を柔軟に設計・実施し、学際的な視点や社会との接点を意識した科学コミュニケーションを促進する。</li> <li>・各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動を行う。</li> <li>・ホームページに、過去の成果の簡潔な紹介や一般図書の掲載を行う。</li> </ul>                                                                                               |
| 出版物等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・J-DESC Newsletter vol. 18（日本語）電子版を発行する。（2025 年 5 月頃）</li> <li>・J-DESC Newsletter vol. 19（日本語）電子版の原稿準備を行う。（2026 年 3 月頃）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                  |

・その他、J-DESC の目的・活動に合致するものを適宜実施する。

## 日本地球掘削科学コンソーシアム2025年度予算（案）

| 科 目                 | 2024年度            |                   | 2025年度            | 備 考                                                                                                      |
|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                     | 予算額               | 決算額               | 予算案               |                                                                                                          |
| <b>【収入の部】</b>       |                   |                   |                   |                                                                                                          |
| 年会費                 | 3,585,000         | 3,500,000         | 3,482,000         | 減少                                                                                                       |
| 正会員                 | 2,970,000         | 2,870,000         | 2,870,000         |                                                                                                          |
| 正会員A                | 2,100,000         | 2,000,000         | 2,000,000         | 100,000円×20団体                                                                                            |
| 正会員B                | 870,000           | 870,000           | 870,000           | 30,000円×29団体                                                                                             |
| 個人会員                | 15,000            | 30,000            | 12,000            | 3,000円×4名                                                                                                |
| 賛助会員                | 600,000           | 600,000           | 600,000           | 100,000円×4団体<br>200,000円×1団体                                                                             |
| 雑収入                 | 0                 | 4,094             | 0                 |                                                                                                          |
| <b>当期収入合計</b>       | <b>3,585,000</b>  | <b>3,504,094</b>  | <b>3,482,000</b>  |                                                                                                          |
| 前年度繰越金              | 13,980,189        | 13,980,189        | 14,913,122        |                                                                                                          |
| <b>収入合計</b>         | <b>17,565,189</b> | <b>17,484,283</b> | <b>18,395,122</b> |                                                                                                          |
| <b>【支出の部】</b>       |                   |                   |                   |                                                                                                          |
| <b>1 共通経費</b>       | <b>4,963,040</b>  | <b>2,374,112</b>  | <b>4,833,000</b>  |                                                                                                          |
| 会員提案型活動経費           | 300,000           | 116,524           | 300,000           | 理事会の承認により上限を超えた予算執行を認める場合がある                                                                             |
| 広報活動費               | 1,708,040         | 881,875           | 1,768,000         | シンポジウム・アウトリーチイベント、学会出展、ホームページ改修・保守、サーバーレンタル、IODP3パンフレット作成、タウンホールミーティング等                                  |
| コアスクール開催費           | 1,455,000         | 766,095           | 1,055,000         | 2025年度は基礎、同位体、ロギング、微化石、Deep Lifeの実施を見込んだ予算額。理事会の承認により上限を超えた予算執行を認める場合がある。前年まで本費目に含んでいた学生旅費と障害保険料を別費目に移動。 |
| コアスクール参加者活動経費       | -                 |                   | 620,000           | 従来コアスクール開催費に含まれていた学生旅費及び傷害保険料を別費目として独立                                                                   |
| 会議開催費               | 60,000            | 0                 | 60,000            | 会議室借用費、会議用システム利用料等                                                                                       |
| 通信費                 | 70,000            | 57,640            | 70,000            |                                                                                                          |
| 雑費                  | 30,000            | 8,616             | 30,000            |                                                                                                          |
| 謝金                  | 60,000            | 0                 | 40,000            |                                                                                                          |
| 事務局業務委託費            | 530,000           | 523,362           | 530,000           |                                                                                                          |
| 掘削提案・成果促進支援費        | 300,000           | 0                 | 200,000           | J-DESCによるWS・研究集会等の開催、掘削提案サポート、SCORE・ReCoRD等の独自プログラムの運用等                                                  |
| 学生・若手参加奨励費          | 300,000           | 20,000            | 160,000           | KGCレガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度、地球掘削科学に関するスクール等参加支援制度、SCORE教育乗船枠制度を含む                                        |
| <b>2 理事会活動経費</b>    | <b>660,000</b>    | <b>197,049</b>    | <b>310,000</b>    |                                                                                                          |
| 理事会活動経費             | 650,000           | 193,749           | 300,000           |                                                                                                          |
| 雑費                  | 10,000            | 3,300             | 10,000            |                                                                                                          |
| <b>3 IODP部会活動経費</b> | <b>528,000</b>    | <b>0</b>          | <b>210,000</b>    |                                                                                                          |
| 執行部会活動経費            | 508,000           | 0                 | 200,000           |                                                                                                          |
| 雑費                  | 20,000            | 0                 | 10,000            |                                                                                                          |
| <b>4 ICDP部会活動経費</b> | <b>427,000</b>    | <b>0</b>          | <b>210,000</b>    |                                                                                                          |
| 執行部会活動経費            | 420,000           | 0                 | 200,000           |                                                                                                          |
| 雑費                  | 7,000             | 0                 | 10,000            |                                                                                                          |
| <b>当期支出合計</b>       | <b>6,578,040</b>  | <b>2,571,161</b>  | <b>5,563,000</b>  |                                                                                                          |
| 当期収支差額              | -2,993,040        | 932,933           | -2,081,000        |                                                                                                          |
| 前期繰越収支差額            | 13,980,189        | 13,980,189        | 14,913,122        |                                                                                                          |
| 次年度繰越金（見込）          | 10,987,149        | 14,913,122        | 12,832,122        |                                                                                                          |
| <b>支出合計</b>         | <b>17,565,189</b> | <b>17,484,283</b> | <b>18,395,122</b> |                                                                                                          |

日本地球掘削科学コンソーシアム会員リスト(2025年度確認用)  
正会員:49 賛助会員:5 個人会員:4

●下記登録情報に誤り、変更がないか、ご確認ください。  
●正会員の皆さまにおかれましては、J-DESC規約第6条2項「コンソーシアムに対して会員を代表し、議決権を含む会員の権利を行使し、コンソーシアムとの連絡を担当する代表担当者1名を定めるものとする」に基づき、代表担当者1名を決めていただくようお願いしております(機関名のみの登録は不可)。

| 会員種別 | 会員機関登録名称                                             | 代表担当者<br>(議決権保持者) | 請求書送付先<br>(無記名の場合は代表担当者と同じ)       |
|------|------------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 正会員  | 秋田大学 国際資源学部                                          | 千代延 俊             |                                   |
|      | 茨城大学                                                 | 岡田 誠              |                                   |
|      | 宇都宮大学                                                | 清木 隆文             |                                   |
|      | 愛媛大学 理学部 地学コース                                       | 堀 利栄              |                                   |
|      | 大阪公立大学 大学院理学研究科 地球学専攻                                | 柵山 徹也             |                                   |
|      | 岡山理科大学                                               | 豊田 新              |                                   |
|      | 岡山大学 理学部 地球科学科                                       | 野坂 俊夫             |                                   |
|      | 海洋研究開発機構 海域地震火山部門                                    | 田村 芳彦             |                                   |
|      | 海洋研究開発機構 海洋機能利用部門                                    | 大河内 直彦            |                                   |
|      | 海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門                                   | 高井 研              |                                   |
|      | 鹿児島大学 大学院理工学研究科 理学専攻 地球科学プログラム                       | 小林 励司             |                                   |
|      | 金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系                                  | 佐川 拓也             |                                   |
|      | 北見工業大学 地域循環共生研究推進センター                                | 南 尚嗣              |                                   |
|      | 九州大学 大学院工学研究院 地球資源システム工学部門                           | 山田 泰広             |                                   |
|      | 九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門                               | 岡崎 裕典             |                                   |
|      | 九州大学 大学院比較社会文化研究院 地球変動講座                             | 仙田 量子             |                                   |
|      | 京都大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻                               | 堤 昭人              |                                   |
|      | 京都大学防災研究所 地震災害研究センター                                 | 伊藤 喜宏             |                                   |
|      | 京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 地球資源学講座                       | 林 為人              |                                   |
|      | 熊本大学 理学部 地球環境科学コース                                   | 石丸 聡子             |                                   |
|      | 高知大学 海洋コア国際研究所                                       | 岩井 雅夫             |                                   |
|      | 神戸大学                                                 | 島 伸和              | 海洋底探査センター                         |
|      | 国立科学博物館                                              | 齋藤 めぐみ            |                                   |
|      | 国立極地研究所 地圏研究グループ                                     | 野木 義史             |                                   |
|      | 国立研究開発法人防災科学技術研究所                                    | 小村 健太郎            |                                   |
|      | 産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山研究部門                       | 藤原 治              | 連携推進室長 小松原 純子                     |
|      | 島根大学 総合理工学部 地球科学科                                    | 向吉 秀樹             |                                   |
|      | 信州大学 理学部                                             | 齋藤 武士             |                                   |
|      | 千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究部門                               | 中西 正男             |                                   |
|      | 筑波大学 生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム                           | 氏家 恒太郎            |                                   |
|      | 東海大学 海洋学部                                            | 坂本 泉              |                                   |
|      | 東京海洋大学 海洋資源環境学部                                      | 山中 寿朗             |                                   |
|      | 東京大学 大学院理学系研究科                                       | 鈴木 庸平             |                                   |
|      | 東京大学地震研究所                                            | 篠原 雅尚             |                                   |
|      | 東京大学大気海洋研究所                                          | 黒田 潤一郎            |                                   |
|      | 東北大学 大学院環境科学研究科                                      | 岡本 敦              |                                   |
|      | 東北大学 大学院理学研究科／学術資源研究公開センター                           | 日野 亮太             | 東北大学 大学院理学研究科／<br>学術資源研究公開センター事務室 |
|      | 徳島大学 環境防災研究センター                                      | 安間 了              |                                   |
|      | 富山大学 都市デザイン学部 地球システム科学科                              | 石川 尚人             |                                   |
|      | 富山大学 理学部自然環境科学科                                      | 堀川 恵司             |                                   |
|      | 名古屋大学 地球環境科学専攻関連講座／地震火山研究センター／<br>宇宙地球環境研究所／名古屋大学博物館 | 道林 克禎             |                                   |
|      | 新潟大学 理学部／大学院自然科学研究科                                  | 高澤 栄一             |                                   |
|      | 日本大学 文理学部 地球科学科                                      | 金丸 龍夫             |                                   |
|      | 兵庫県立大学 大学院 理学研究科 地球科学講座                              | 後藤 忠徳             |                                   |
|      | 広島大学 大学院先進理工系科学研究科                                   | 岡崎 啓史             |                                   |
|      | 北海道大学 大学院地球環境科学研究院 地球圏科学部門                           | 入野 智久             |                                   |
|      | 山形大学 理学部 地球科学コース                                     | 伴 雅雄              |                                   |
|      | 山口大学 理学部 地球システム圏科学科                                  | 坂口 有人             |                                   |
|      | 琉球大学 理学部                                             | 藤田 和彦             |                                   |
| 賛助会員 | エスケイエンジニアリング株式会社                                     | 菅野 俊              |                                   |
|      | シュルンベルジェ株式会社                                         | 田村 淳一             |                                   |
|      | ハリバートン・オーバーシイズ・リミテッド                                 | 日本支社代表 遠藤 聡       |                                   |
|      | 株式会社クリステンセン・マイカイ                                     | 田中 洋              |                                   |
|      | 株式会社マリン・ワーク・ジャパン                                     | 営業部長 倉本 敏克        |                                   |
| 個人会員 | 佐藤 暢                                                 |                   |                                   |
|      | 西尾 光                                                 |                   |                                   |
|      | 福地 里菜                                                |                   |                                   |
|      | 立命館大学 総合科学技術研究機構 小笠原 宏                               |                   |                                   |